

平成28年度（平成27年度対象）

網走市教育委員会 事務点検・評価報告書

平成28年9月
網走市教育委員会

はじめに

本市では、平成20年5月に「網走市の教育目標」を策定し、また、この具現化のために「網走市学校教育計画」並びに「第3次網走市社会教育長期計画」を策定して、次代を担う子どもたちの「生きる力」の育成や、市民の学習活動の支援と学習機会の提供に努めているところです。

こうした教育委員会の活動については、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、各教育委員会が毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出、公表することとされています。

当委員会では、平成27年度の事務・事業について、学識経験者の知見を活用した点検・評価を実施し、本報告書のとおり取りまとめを行いました。

今回の点検・評価の結果を踏まえ、今後も本市の子どもたちの心豊かな成長と、市民の皆様の活気と潤いに満ちた生涯学習社会の創造をめざし、学校・家庭・地域はもとより、関係機関・関係団体等との連携を深めて、本市教育のより一層の充実・発展のために全力で取り組んでまいります。

平成28年 9 月

網走市教育委員会 教育長 三 島 正 昭

目 次

I	教育委員会事務点検・評価制度の概要	
1	制度について	1
2	点検・評価の構成	1
II	平成27年度教育行政推進方針についての点検	
1	総評	2
2	事業の点検	
	[学校教育の推進]	
	※学校教育の各項目は「網走市学校教育計画」の施策の柱に合わせています。	
	1. 幼児期に身につけるべき基礎を育む	2
	2. 自ら学ぶ意欲と、自信をもって生きていく力を育む	3～5
	3. 思いやりを大切に、豊かな心や地域を愛する心を育む	5
	4. 心身ともに健康で元気に生活できる体を育む	6～8
	5. 支援が必要な子どもに対する教育体制を整える	8～10
	6. 地域と共に築く学校づくりのための支援体制を整える	10～12
	7. 子どもの学びを支える特色ある教育環境を整える	12～15
	[社会教育の推進]	
	1. 生涯学習	16～24
	2. 社会教育	25～30
	3. 家庭教育	31～32
	4. 芸術文化	32～42
	5. 文化財	42～43
	6. スポーツ	43～48
	7. 国際化対応	48～49
III	教育委員会の活動状況	
1	教育委員の就退任状況	50
2	教育委員会議の開催状況	50～52
3	その他の主な活動	53
4	教育委員による自己点検	54～56
IV	外部評価報告書	
1	総評	57
2	学校教育の推進	57～58
3	社会教育の推進	58～60
4	教育委員会活動	60

I 教育委員会事務点検・評価制度の概要

1. 制度について

中央教育審議会等における従来からの議論に加え、平成18年度に発足した「教育再生会議」の第一次報告においても、教育委員会の自己評価の必要性に関して言及されました。こうした状況を背景に、平成19年6月に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条において、平成20年度から、すべての教育委員会において、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

《地方教育行政の組織及び運営に関する法律(第27条)》抜粋

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2. 点検・評価の構成

平成27年度の教育委員会事務及び活動について、点検・評価を次のとおり実施しました。

(1) 目的

本市の教育行政の充実に資するとともに、住民への説明責任を果たすことを目的とします。

(2) 対象期間

平成27年度とします。

(3) 事務点検

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定する教育委員会の権限に属する事務及び市長から補助執行を受け教育委員会において実際に管理・執行している事務として、平成27年度教育行政推進方針に掲げられた施策に基づく事業について取り組み実績をまとめ、内部点検を行いました。

(4) 委員会活動の点検

教育委員により平成27年度の教育委員活動について自己点検を行いました。

(5) 学識経験を有する方の知見の活用(外部評価)

外部評価を実施するため、東京農業大学生物産業学部 教職課程 後藤広太郎 准教授と、元網走市社会教育委員の会議 委員 山本成治 氏に外部評価を依頼しました。

資料として、「網走市教育行政執行について」、「網走教育行政推進方針」、「平成27年度の主な活動内容など」を提供し、それを基に点検・評価をいただき、報告書を作成しました。

Ⅱ 「平成 27 年度教育行政推進方針」 についての点検

教育行政推進方針は、毎年、市議会第 1 回定例会において教育長が表明する翌年度の教育行政執行についての具体的な推進方針として、教育予算とともに教育委員会において審議・決定されるものです。

平成 27 年度事業として、その中に盛り込まれた施策・事業の内容と成果について内部点検を行い、今後の方向性について考察しました。

1. 総評

教育行政推進方針に掲げてある事業については、概ね予定どおり実施されています。

こうした点検が毎年行われることにより、課題の特定化と明確化が進み、次年度の方針決定に生かせるものと考えます。

2. 事業の点検

《点検結果》

学校教育の推進

1. 幼児期に身につけるべき基礎を育む

項 目	幼児教育振興補助事業（教材教具補助金）
	平成 24 年度より福祉部子育て支援課へ所管替え

項 目	私立幼稚園特別支援教育振興補助事業（障がい児教材補助金）
	平成 24 年度より福祉部子育て支援課へ所管替え

2. 自ら学ぶ意欲と、自信をもって生きていく力を育む

項目	学力向上対策事業（拡充）
目的	児童生徒の学力の実態を把握するとともに、効果的な授業や対応を推進し、学力の向上を図る。 市内小中学校教職員を学力向上先進地に派遣し、視察研修の結果を市内小中学校の学習指導の取組みに反映させることで、市内教職員の授業力アップを図る。
取組実績	・学力テスト：小学校 1,052 千円、中学校 525 千円 ・先進地視察旅費：小学校 105 千円（石狩市立花川小学校 視察 3 名） 中学校 104 千円（登別市立幌別中学校 視察 3 名）
成果	毎年所要額を予算措置することにより、学力の継続的把握が可能となる。
課題	継続して充実を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項目	教材教具の整備（継続）
目的	小中学校の教材教具の整備・充実を図る。
取組実績	・知能検査：小学校 247 千円、中学校 8 千円 ・教材費等配当：小学校 5,836 千円、中学校 4,962 千円 ・義務教育教材の整備（市単費）：小学校 5,920 千円、中学校 5,065 千円 ・理科教育教材の整備（国補助）：小学校 4,248 千円、中学校 3,092 千円 ・通知票、指導要録、卒業証書の印刷：小学校 511 千円、中学校 341 千円
成果	毎年所要額を予算措置することにより、教材・教具の整備・充実が図られている。
課題	継続して充実を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく

項目	情報教育推進事業（継続）
目的	小中学校における情報教育を推進し、情報モラルを身につけさせるとともに、情報化社会に対応する人材の育成を図る。
取組実績	・インターネット料やウイルス対策ソフト使用料などのパソコン活用に係る管理（教員用パソコン H26 Windows7へ更新（買替 32 台、アップグレード 248 台）） （小学校 PC 教室 H24 デスクトップ PC247 台整備、中学校 PC 教室 H26 タブレット PC 166 台整備）
成果	・パソコンやインターネットを活用した情報教育の充実により、情報活用能力が向上し、多様な自己表現を身に付け、情報化社会に対応する人材の育成が図られた。 ・教員用パソコンを整備することでパソコンの持ち込みを禁止し、セキュリティ対策が図られた。
課題	パソコン等を有効かつ効果的に活用した学習指導の促進。
今後の方向性	今後も情報教育を推進していく。

項目	国際理解・英語教育の充実〔英語指導助手配置〕(継続)
目的	中学校における英語授業において、担当教諭をサポートする外国青年「英語指導助手(ALT)」を配置し、生きた英語に触れることにより、生徒の英語の表現力やコミュニケーション能力の育成を図る。
取組実績	・英語指導助手(ALT)の配置(1名) ・中学校6校を訪問・指導 ・英語能力コンテスト等への協力 ・学校行事、クラブ活動への協力 ・地域における国際交流への協力
成果	ALTの生きた英語に触れることにより、英語の正しい発音や表現力、コミュニケーション能力の育成が図られている。
課題	ALTの来日当初は、うまくコミュニケーションが図れない場面もあることから、3年程度の継続雇用が必要と考える。 (ALT本人の都合で短期帰国を希望するケースもある。)
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項目	学校図書館司書の配置(継続)
目的	小学校の学校図書館に司書を配置し、図書館整備・活用促進を図ることで、児童の読書への関心を深める。
取組実績	司書教諭が未配置の学校図書館に、司書資格を有する者を配置し、学校図書館図書の整理・管理、児童への読み聞かせ、授業に使用する図書の選別等を行う。 平成25年度から小学校3校に、それぞれ4カ月毎、モデル的に巡回配置。平成27年度より3名体制とし、司書教諭配置校全てに巡回配置している。
成果	本の整理・分類整備が進み、貸出冊数の増加や高学年の利用が増えるなど、児童の読書への関心が深められた。
課題	児童の読書への関心を継続させるための検討が必要。
今後の方向性	今後も司書教諭未配置校全てに巡回配置することとし、事業を継続していく。

項目	読書感想文コンクールの実施(新規)
目的	読書感想文コンクールを開催し、読書活動の推進を図ることで児童生徒の読書意欲を高めて、自分の考えを文章で表現する力を身につけさせる。
取組実績	応募期間 平成27年7月～10月末日 応募対象 網走市内小中学校に在学する児童生徒 応募区分及び応募作品数 (1) 小学校低学年の部 481点 (2) 小学校中学年の部 584点 (3) 小学校高学年の部 545点 (4) 中学生の部 447点 審査の結果、平成27年12月19日に表彰式を実施し、入賞作品集を発行した。
成果	児童生徒の「書いて表現する活動」「自分の考えを持ち、文章で表現する活動」としての向上が図られた。
課題	選書、応募区分、審査基準など、児童生徒が取り組みやすい実施方法の検討が必要。
今後の方向性	学力向上策の一つとして、今後も継続していく。

項目	学習支援員配置事業（新規）
目的	市費負担による教員を配置し、習熟度別少人数指導や補充学習に取り組むことで、学習内容の基本・基礎を定着させる。
取組実績	退職した教員や、免許所有者を嘱託職員として雇用し、市立小学校2校、中学校2校に派遣し習熟度別授業や少人数指導、補充学習に取り組んだ。
成果	きめ細かな指導が可能となり、基礎・基本の定着が進むとともに、補充学習を通じて児童生徒の学習意欲の向上が図られた。
課題	道教委加配による少人数指導と関連した、より効果的な活用法の検討が必要。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒の学力向上に努める。

3. 思いやりを大切に、豊かな心や地域を愛する心を育む

項目	教材教具の整備〔学校図書〕（継続）
目的	小中学校の学校図書館用図書の計画的な整備・更新を図る。
取組実績	文科省より示されている学校規模（学級数）に応じた学校図書整備基準冊数を踏まえ、各学校へ予算を配当：小学校3,853千円、中学校2,819千円
成果	毎年所要額を予算措置することにより、教材・教具の整備・充実が図られている。 小学校1,918冊購入、中学校1,572冊購入
課題	図書整備基準冊数の達成を最優先に進めてきた結果、古書の更新が遅れている。
今後の方向性	平成27年度末の図書整備基準冊数達成率は、小学校全体で101.1%、中学校全体で103.4%となっている。 引き続き基準冊数を保持しながら、古書・毀損（きそん）図書の更新に努める。

項目	学校給食を活用した食育の推進（継続）
目的	栄養教諭の任用により食育の推進を図るとともに、未配置校においても食に関する指導を実施する。また、地場産物を活用した給食を実施し、地元産業や地場産物への理解を深める。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭による食に関する指導（栄養教諭5名配置） ・「網走ふるさと給食」において、地元産食材を使用した給食を実施し、希望校においては生産者講話を実施。（メニュー：鮭ザンギ丼、しじみ汁、牛乳） ・地元産業や地場産物への理解を深めるため、網走産行者菜を使用したジンギスカンやあばしり和牛を使用した給食の実施。 ・鯨食文化の理解を深めるために、鯨肉を使用した給食の実施。 ・野菜摂取量の増加、野菜に親しむことを目的とした野菜の日給食の実施。
成果	食育の推進や地元産物を活用することにより、児童生徒の地場産物や食文化に対する理解が深められた。また、栄養教諭見配置校においても食に関する指導を実施し、食育を推進するための体制が整備された。
課題	・生産者や流通などの関係機関との連携体制の構築。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭と連携を図りながら、全校的に食育の推進を図る。 ・地元産物を活用するとともに、生産者の協力を得ながら「網走ふるさと給食」等の地場産品普及事業を継続して実施していく。

4. 心身ともに健康で元気に生活できる体を育む

項目	児童生徒及び教職員の健康管理事業（継続）
目的	児童生徒が健康な体で学校生活を送れるよう各種保健事業を行うとともに、疾病等の早期発見、早期治療による健康管理を推進するため、教職員等を対象にした健康診断を実施する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・新入学の児童を対象とした就学時健康診断の実施 ・在籍する児童生徒を対象とした各種健診の実施（尿検査、ぎょう虫卵検査、結核健診、脊柱側湾症検査、眼科検診、耳鼻咽喉科検診、心臓検診） ・学校に勤務する教職員 217 名の健康診断を実施
成果	健康診断を実施することにより、児童生徒や教職員の健康管理が図られている。
課題	医師会との連携、各種検診における学校との日程調整及び学校外で実施する検診の検診会場の見直し等が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒や教職員の健康管理の推進に努める。

項目	教育相談体制の充実〔教育児童相談室運営事業〕（継続）
目的	児童生徒の教育及び家庭児童福祉上の問題に対して、児童生徒及び保護者からの相談に応じ、関係機関との連絡調整を行いながら指導・助言を行う相談室を設置して問題解決を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・相談室の開設（相談員は教育から 1 名、福祉から 2 名を配置） ・相談延べ件数：218 件
成果	相談員が学校や関係機関との連絡調整を図りながら、問題解決に向け指導・助言を行っている。
課題	学校をはじめ関係機関と連携を図る上で、多忙な学校事情によりスムーズに指導助言が進まない事例があった。虐待については発見が難しいケースもある。
今後の方向性	今後も、不登校やいじめ・家庭問題等に対し、学校・家庭・地域が連携して適切に対応していくよう相談室の充実を図る。

項目	学校スケートリンク設置補助事業（継続）
目的	冬季における学校教育の一環として行われるスケート授業の実施のため、学校スケートリンク等設置運営に要する経費の一部補助を実施校に対して行い、児童生徒の心身の健全な発達を図る。
取組実績	スケートリンク等設置で補助 5 校（網走小、西小、東小、白鳥台小、西が丘小）
成果	スケート授業の実施により、子どもたちの心身の健全な発達が図られた。
課題	スケートリンクの造成が大変なこともあり、補助対象校が減少傾向にあるため、各学校へリンク造成を打診する。
今後の方向性	事業を継続し、冬季スポーツによる子どもたちの心身の健全な発達を図っていく。

項目	学校プール管理事業（継続）
目的	夏季における学校教育の一環としての水泳授業実施のため、学校プールの安全な管理運営及び施設整備を行う（小学校7校） ⁶
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市内7校（網、中央、西、南、潮見、東、白鳥台小学校） ・プール管理人を各校1名配置（委託先：シルバー人材センター） ・プール環境の点検も管理人が実施（水質、水温、室温等） ・定期検査実施（学校薬剤師と市1名で残留塩素、大腸菌群、管理日誌記録等点検） ・児童が使用する際は、委託の管理人の他に教師2名を配置し監視する。 ・プール使用時期前後に濾過機の保守点検や屋根シートの付け外しを実施。 ・学校プール開放（東・白鳥台小）については、監視業務実施可能な警備業者等の確保が困難なことから平成24年度をもって終了。
成果	安全なプール授業の実施により、子どもたちの心身の健全な発達が図られた。
課題	施設の維持について、優先度の高いものから順に整備を進めていく。
今後の方向性	引き続き学校プールの適切な管理運営に努める。

項目	学校給食運営事業〔施設・備品の整備、衛生管理〕（継続）
目的	安全で安心な学校給食の実施により、児童生徒の身体に必要な栄養を摂取し、あわせて食事のマナー等を身につけさせる。また、給食室設備の維持管理、給食調理員の衛生教育等を行う。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・設備・備品の主な修繕・更新の実施状況 ボイラー設置工事（潮見小 1,109千円） フィルターボックス改修工事（南地区 648千円） ボイラー修繕工事（白鳥台小 333千円） エアコン補修工事（潮見小 189千円） 回転釜更新（東部地区 548千円、白鳥台小564） 回転釜内釜更新（潮見小 181千円、呼人小 210千円、西部地区270千円） 給食用食器更新（南小・第三中用 4,823千円） まな板殺菌庫購入（潮見小 330千円） ・学校給食従事職員研修会（年1回） ・学校給食巡回指導の実施（年2回、栄養教諭の配置がない3校へ）。 ※保健所による検査（春・秋実施） ・給食調理員の検便検査、食材の細菌検査の定期的な実施。 ・給食食材放射性物質検査（10回実施 検出なし） ・児童生徒の食物アレルギーに対し、家庭との連携を図り対応。
成果	衛生管理に努め、安全・安心でおいしく質の高い学校給食を児童生徒に供給し、健やかな身体の成長を図ることができた。
課題	施設改善・備品等整備・衛生管理等に努めるとともに、児童生徒により安全で安心な学校給食を提供していくための調理体制を検討していく必要がある。
今後の方向性	今後も現在の予算規模内で施設設備の維持修繕・更新を進めていく。また、学校給食従事職員の衛生教育等を図り、児童生徒に安全で安心な学校給食を供給していく。

項目	子ども安全対策事業〔安全教育の充実〕（継続） ※通学路の整備及び安全対策を含む。
目的	子どもの安全確保に関して地域や関係団体と連携して網走市独自の積極的な活動を推進する。また、児童生徒が安全に通学できるよう通学路の安全確保を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の協力でパトロール活動を実施。 ・活動用資材の購入・配付。 ・児童生徒への防犯ブザーの貸与。 ・「子ども 110 番のバス」の運行。 ・「子ども 110 番」事業の開始（郵便事業㈱網走支店との協定） ・スクールガードリーダーによる学校巡回指導（道費補助） ・通学路の安全対策（向陽ヶ丘シェルター防犯カメラの管理）
成果	地域ボランティアによる登下校時のパトロールをはじめ、学校と地域が連携した子どもの安全確保が図られた。また、シェルター内に防犯カメラを設置することにより、犯罪被害の未然防止につながった。
課題	ボランティアの確保や高齢化などが課題となっている。
今後の方向性	今後も活動資材の提供等を行うとともに、スクールガードリーダーやパトロールボランティア、学校、家庭、地域とも連携して子どもの安全確保に努める。

5. 支援が必要な子どもに対する教育体制を整える

項目	特別支援教育の推進〔特別支援教育費、施設・備品等整備〕（継続）
目的	特別支援学級、通級指導教室（ことばの教室）の学級設備・用具・教材の充実を図るとともに、学級運営上の必要経費について学校配当を行う。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育費学校配当：小学校 8 校 2,143 千円、中学校 5 校 762 千円 ・既存特別支援学級教材備品の整備：小学校 8 校（30 学級）354 千円、 中学校 5 校（12 学級）871 千円 ・通級指導教室（ことばの教室）への教材費等配当：小学校 1 校（1 教室）385 千円
成果	学級設備・用具・教材の整備充実を進めることにより、円滑な学級運営が図られた。
課題	増加傾向にある要支援児童生徒に対する個別ニーズへ対応する必要がある
今後の方向性	増加・多様化する要支援児童生徒に対し、個々の適性に応じた設備や教材の更なる整備・充実を図る。

項目	特別支援教育研修事業（継続）
目的	障がいのある児童生徒に対しては、様々な工夫と配慮の下での指導が展開されている中で、より障がいに対する幅広い理解と専門性の一層の向上が図られるよう研修の場や機会を設ける。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援研修会の開催（8 月 31 日／網走地方教育研修センター）参加者 39 名 ・各種研修講座の案内
成果	研修会の開催をはじめ、北海道のパートナーティーチャー派遣制度を活用するなど、研修機会を増やすことにより、担当教員のより専門的な知識の習得と資質の向上が図られている。
課題	養護学校等の関係機関と更に連携を深める必要がある。
今後の方向性	具体的な指導法を盛り込んだ、より実践的な研修の充実を図る。

項目	特別支援教育支援員の配置（継続）
目的	教育上特別な配慮を要する児童生徒の特別支援教育推進のため、通常学級及び特別支援学級に支援員を配置する。
取組実績	支援員の配置：小学校6校・16名、中学校2校・3名
成果	支援員を配置することにより、特別支援学級等でのより円滑な学級運営が図られた。
課題	特別支援教育対象児童生徒の増加に伴い、教員の負担も増大しているため、学校の実情に応じた支援員配置が必要である。
今後の方向性	毎年度、各学校の実情に応じて支援員の人的配置を見直し、限られた職員体制の中で効果的に特別支援教育が実施されるよう、その充実に努める。

項目	スクールカウンセラーの配置（継続）
目的	児童生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識及び経験を有するスクールカウンセラーを配置し、学校における教育相談体制の充実を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市内小中学校の児童生徒のスクールカウンセリング、教職員・保護者に対する専門的助言や情報提供を実施。 ・相談延べ件数 459 件（年間 120 回、480 時間）
成果	スクールカウンセラーの適切な指導・助言による的確な課題整理が可能となり、児童生徒の不登校や問題行動等の解決に向け、生徒指導の充実が図られた。
課題	カウンセリングが必要な児童生徒など、学校や教育相談室との更なる連携が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項目	適応指導教室の充実（継続）
目的	不登校児童生徒に対しての適切な教育相談、適応指導、学習指導などの指導援助を行い、集団生活への適応や学校生活への復帰を促すため、適応指導教室を設置する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室指導員の配置（1名） ・適応指導教室「クリオネ学級」の開設・運営（毎週月～金曜日 午前9～午後3時） ・通級児童生徒数 H27年度5名（小6:1名、中2:3名、中3:1名）
成果	教育相談や適応指導、学習指導を通し、不登校児童生徒の集団生活への適応の改善が図られている。
課題	児童生徒個々の性格・実情を把握し、復帰に向けてそれぞれに見合った指導援助が必要であるが、児童生徒の安定した通級を図ることに難しさもある。
今後の方向性	現在も不登校児童生徒がいることから、一人でも多くの児童生徒が学校復帰できるよう適応指導教室の充実を図る。

項 目	いじめ対策事業（継続）
目 的	いじめの実態を把握し、今後のいじめの未然防止、早期発見、早期対応等の指導に役立てる。また、講演会や啓発資料の作成を通して、児童生徒、学校、保護者へいじめ問題への取り組みの重要性を広める。
取組実績	・スクールカウンセラーを活用した学校への指導、助言。 ・学校でのいじめ撲滅の看板作成。
成 果	いじめ問題の取組について、普及・啓発が図られた。
課 題	表に出てこない“いじめ”の実態の把握に努める必要がある。
今後の方向性	児童生徒一人一人がいじめ問題の認識を持ち、学校全体で未然防止の取り組みが出来るよう必要な支援を行っていく。

項 目	学級経営支援事業【Q-Uテストを活用した学級集団状況把握】（継続）
目 的	児童生徒に学校生活意欲と学級満足度の検査を実施し、いじめや不登校などの問題行動の早期発見、予防と対策につなげる。
取組実績	・Q-Uテストを小学校4校（中央小、西小、南小、西が丘小）、中学校1校（第二中）で実施した。
成 果	Q-Uテストの結果を、学級経営に反映させることで、児童生徒の悩みや問題行動の早期解決を図ることができた。
課 題	継続してテストを実施し、データ等を蓄積することで、より確実な対応が可能となるので、小中連携の充実が必須となる。
今後の方向性	今後も事業を継続し、より安定した学級経営を図る。

6. 地域と共に築く学校づくりのための支援体制を整える

項 目	教育研修推進事業【学校教育研究実践校補助】（継続）
目 的	教育課程、学習指導及び生徒指導等の当面する学校教育の課題について、実践的な研究を促進する。
取組実績	市内小中学校のうち申請のあった学校に対し、教育研究経費を補助する。平成22年度より、それまで2年間指定としていたところを単年度指定に改め、各校の公開研究会実施を支援した。
成 果	指定校では、当面する課題の実践研究が行われ、教職員の資質向上や児童生徒の学力向上が図られ、実践研究成果の普及に努めている。
課 題	取り組みを市内全校に広めていく。
今後の方向性	今後も事業を継続し、教職員の資質向上・児童生徒の学力向上に努める。

項目	教育研修推進事業〔授業研修の充実と各種研修事業への参加奨励〕（継続）
目的	各種研修へ参加することにより、教職員の資質や指導力の向上を図る。
取組実績	網走地方教育研修センター主催の各種講座、道教委主催の各種研修（初任者研、5年経験者研、10年経験者研、新任校長・教頭研、公立学校運営研、栄養教諭研など）、道立教育研究所主催の各種講座等への参加奨励
成果	研修機会を増やすことで、教職員の資質や指導力の向上を図っている。
課題	研修機会は充実しつつあるので、教職員が参加しやすい環境づくりにも配慮する必要がある。
今後の方向性	教職員の資質や指導力の向上を図るため、今後も各種研修事業への参加奨励に努める。

項目	教職員住宅管理事業（継続）
目的	教職員住宅の維持修繕及び営繕を行い、教職員が快適に生活できる環境をつくる。 (27年度末 管理住宅82戸)
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・9月中旬に修繕要望を取りまとめ、10月中旬に現地調査を実施 ・主な修繕の実施状況：住宅補修 8件、水廻り・ボイラー修繕 20件 設備修繕 6件 ・解体 1棟2戸（藻琴 老朽化による） ・所管換1棟2戸（市管財係） ・人事異動に伴う新入居者の決定（3月下旬に教職員住宅入居者選考委員会開催）
成果	修繕要望があった箇所は概ね修繕を行い、快適な生活環境を整備している。
課題	現状の予算規模内で修繕を継続実施し、耐用年数の長期化を図っていく必要がある。
今後の方向性	今後も現状の予算規模内で維持修繕を行い、教職員が快適に生活することができる住環境の整備に努める。

項目	学校開放運営事業（継続）																								
目的	学校教育に支障のない範囲で、小中学校の体育館を市民に開放しスポーツ・文化活動の場として活用する。																								
取組実績	<table> <tr> <td>網走小学校</td> <td>756名</td> <td>第1中学校</td> <td>1,750名</td> </tr> <tr> <td>南小学校</td> <td>1,091名</td> <td>第2中学校</td> <td>1,145名</td> </tr> <tr> <td>潮見小学校</td> <td>620名</td> <td>第3中学校</td> <td>1,180名</td> </tr> <tr> <td>中央小学校</td> <td>1,761名</td> <td>第5中学校</td> <td>363名</td> </tr> <tr> <td>西小学校</td> <td>1,549名</td> <td>呼人小中学校</td> <td>818名</td> </tr> <tr> <td>東小学校</td> <td>598名</td> <td>※合計</td> <td>年間延べ11,631名</td> </tr> </table>	網走小学校	756名	第1中学校	1,750名	南小学校	1,091名	第2中学校	1,145名	潮見小学校	620名	第3中学校	1,180名	中央小学校	1,761名	第5中学校	363名	西小学校	1,549名	呼人小中学校	818名	東小学校	598名	※合計	年間延べ11,631名
網走小学校	756名	第1中学校	1,750名																						
南小学校	1,091名	第2中学校	1,145名																						
潮見小学校	620名	第3中学校	1,180名																						
中央小学校	1,761名	第5中学校	363名																						
西小学校	1,549名	呼人小中学校	818名																						
東小学校	598名	※合計	年間延べ11,631名																						
成果	年間1万1千名超と多くの市民の利用があり、スポーツ・文化活動の場となっている。																								
課題	施設備品の破損は少なくなっているが、依然としてゴミのポイ捨て等、利用マナーに問題を抱える学校もあるため、施設管理委託先とも対策を検討する。																								
今後の方向性	スポーツ・文化活動の振興を図るため、事業を継続していく。																								

項目	東京農業大学学生・網走市立学校連携事業（継続）
目的	地域の教育力活用の一環として、東京農大学生が市内小中学校の教育活動にボランティアとして参加することにより、学校教育のさらなる改善・充実が図られることを目的に実施する。
取組実績	・小中学校からの要請に基づき、東京農大の協力を得て学生ボランティアを派遣。 ・スキー・スケート学習の指導、総合的な学習の支援、部活動の指導補助、各種授業の補助など。
成果	学生ボランティアの参加を得ることで、小中学校における教育活動の改善・充実が図られた。
課題	時期や内容によっては、学生ボランティアの確保が困難な場合がある。
今後の方向性	学校支援地域本部事業と連携を図り、学生ボランティアをより効果的に利用できるよう改善を図る。

7. 子どもの学びを支える特色ある教育環境を整える

項目	スクールバス運行委託事業（継続）
目的	網走市郊外の西部地区及び東部地区の児童生徒の安全な通学を確保するため、スクールバスを運行し、通学時の利便性向上を図る。
取組実績	・遠距離通学児童生徒のため、西部地区3路線、東部地区5路線の登下校便を運行する。 ・小中学校の広範な教育活動をサポートするため、各校に借上げバスの学校配当を行う。 （小学校1,420千円、中学校1,033千円） ・学校の校外学習及び社会科見学等のため、スクールバスの多目的運行を行う。 ・休日及び夏・冬休み中の部活動におけるスクールバス運行を行う。
成果	遠距離通学児童生徒の利便性の向上と負担の軽減が図られている。
課題	停留所や路線が固定せずに毎年度変更することから、利用者によって乗降場所に遠近の差が生じたり、季節や状況によって乗降位置が変更するなどの実態がある。また、過去に設置された待合所が老朽化等により、管理上の課題となっている。
今後の方向性	今後も継続して安全・安定運行に努める。また、路線及び停留所の設定等については、地域と協議のうえ、取り進めていく。

項目	学校管理運営費〔教育環境の充実、学校配当予算〕（継続）
目的	小中学校施設の管理（備品購入、業務委託等）をし、児童生徒や教職員が快適に過ごすことができる環境をつくる。
取組実績	主な備品購入、業務委託の実施状況 【小学校備品】：白鳥台小 除雪機（848千円）東小 自動床洗浄機（423千円） 【中学校備品】：第三中 除雪機（703千円）呼人中 印刷機（648千円） 【委託業務】：小中学校機械警備、自家用電気工作物保守、消防用設備保守点検、 廃棄物収集運搬処理、ストーブ分解掃除、トイレ清掃 学校配当予算の執行状況 【小学校】需用費18,120千円、役務費631千円、備品購入費930千円 合計19,681千円 【中学校】需用費11,450千円、役務費324千円、使用料19千円、備品購入費916千円 合計12,709千円
成果	学校からの要望や耐用年数等から備品の購入や業務委託を行い、施設の維持が図られている。
課題	学校配当予算を算出する際の単価が、学校の実情に合っているかの検証を行う。
今後の方向性	今後についても引き続き、予算規模内で備品管理、業務委託を実施し、児童生徒・教職員の快適な環境づくりを引き続き進めていく。

項目	学校施設の営繕・修繕工事（継続）
目的	小中学校の校舎やグラウンド等の維持修繕及び営繕を行い、児童生徒や教職員が快適に過ごすことができる環境をつくる。
取組実績	<p>主な営繕の実施状況</p> <p>【小学校】：南小学校体育館外壁改修工事（2,646千円）、西が丘小学校図書コーナー稼働間仕切設置工事（778千円）、潮見小学校ランドセルボックス設置工事（972千円）</p> <p>【中学校】：グラウンド改修工事（第二中・第五中）（2,237千円）、第五中学校玄関電気錠工事（502千円）、第四中学校屋体ドア取替工事（434千円）、中学校屋体外壁改修工事（第一中・第四中）（2,506千円）</p>
成果	学校からの要望や耐用年数等から、学校施設の必要な維持修繕及び営繕を行い、施設整備が充実され快適な環境がつけられている。
課題	現状の予算規模内で維持修繕を継続実施し、耐用年数の長期化を図っていく必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒及び教職員にとって快適な環境づくりを進めていく。

項目	幼稚園就園奨励費補助事業
	平成24年度より福祉部子育て支援課へ所管替え

項目	小中学校就学奨励事業（継続）※教材費等の保護者負担の一部軽減を含む。
目的	教育の機会均等の精神に基づき、経済的理由により就学困難な児童生徒及び特別支援学級に就学する児童生徒の保護者に対し必要な財政支援を行い、すべての児童生徒が義務教育を円滑に受けることができるよう援助する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、通学費、給食費、新入学児童生徒学用品費、体育実技用具費、生徒会費、PTA会費、クラブ活動費の扶助。 ・要保護者に対する修学旅行費の扶助。 ・学校保健安全法第24条及び同法施行令第8条に定める疾病の治療に要した費用の援助。 ・H27 準要保護児童生徒扶助児童数 625名、特別支援学級在籍扶助児童数 44名
成果	経済的支援を要する保護者の負担軽減が図られている。
課題	認定事務作業の効率化に向けた検討を進めていく必要がある。
今後の方向性	作業の効率化を図りながら今後も事業を継続していく。

項目	網走南ヶ丘高等学校定時制振興補助事業（継続）
目的	定時制高校において、社会の変化に対応した教育を推進するために教材・教具の整備を図る。
取組実績	網走南ヶ丘高等学校定時制振興会に対し、年額90千円の補助を行った。
成果	教材・教具を整備することにより、教職員の指導方法の充実及び生徒の学習支援に寄与した。
課題	現状の予算規模内で、効果的となる教材教具の整備を図っていく必要がある。
今後の方向性	社会の変化に対応した教育の充実・推進を図るため、今後も事業を継続していく。

項目	奨学資金貸付事業（継続）
目的	能力があるにもかかわらず経済的理由によって就学困難な学生に奨学金及び入学準備金を貸付け、社会の有用な人材を育成することを目的とする。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・資金貸付状況 0件 0千円 <ul style="list-style-type: none"> 大学・専門課程（月額 18 千円、入学準備金 120 千円） 0件、0千円 高校・高等課程（月額 9 千円、入学準備金 60 千円） 0件、0千円 ・償還金収納状況 4,192,025 円（収納率 22.0%） <ul style="list-style-type: none"> 現年度分 2,514,550 円（69.9%） 滞納繰越分 1,677,475 円（10.9%）
成果	収入基準は、学生支援機構の 1.1 倍に設定し、更に収入基準の 130%超過まで認定するなど、間口を広げることにより利用の拡大を図っている。
課題	貸付償還金の滞納者が増加し、制度の運用に影響が及ばないように、新規滞納者を増やさない等の収納率向上に向けた取り組みが必要である。 また、近年、貸付件数が減少しているため、制度の周知を図っていく。
今後の方向性	固定化する滞納者への償還指導を強化するとともに、新たな滞納者が発生しないよう、新規償還開始者については早期から償還を意識付けさせていく取組を行う。

項目	学校遊具安全対策事業（継続）
目的	児童の安全を確保するために、学校遊具の計画的な整備（撤去・補修・新設）を行う。
取組実績	撤去 6 遊具（東小学校 4 遊具、呼人小中学校 2 遊具） 新設 1 遊具（東小学校 ジャングルジム）
成果	撤去・新設により、安全な環境が整った。
課題	定期的な点検・メンテナンスの実施。
今後の方向性	引き続き計画的な整備を実施し、安全な環境の確保を図る。

項目	小中学校改修事業（継続）
目的	学校施設の長寿命化を図るため、施設や設備の計画的な改修に取り組む。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 屋上防水改修実施 1 校（西小学校） 屋根改修実施 1 校（呼人小中学校）
成果	改修により、施設の長寿命化が図られた。
課題	改修財源の確保。
今後の方向性	引き続き計画的な改修を実施し、施設の長寿命化を図ります。

項 目	小中学校屋体設備落下防止対策事業（新規）
目 的	屋体設備の落下防止対策を行い、安全な環境整備を図ります。
取組実績	<p>吊下式バスケットゴール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更新 1校（潮見小） ・落下防止装置設置、ワイヤー・ウインチ交換等 13校（潮見小以外全校） <p>屋体舞台バトン昇降機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更新 6校（網走小、東小、第二中、第三中、第四中、第五中） ・ワイヤー交換等 3校（中央小、白鳥台小、呼人小中）
成 果	落下防止対策を行うことにより、施設の安全な環境の確保が図られた。
課 題	改修後の定期的な点検・メンテナンスの実施。
今後の方向性	落下防止対策は完了したが、引き続き定期的な点検を実施する。

項 目	小中学校環境整備事業（新規）
目 的	トイレ洋式化及び多目的トイレの設置を行い、学校施設の環境改善を図る。
取組実績	<p>トイレ洋式化 12校 58基（児童用31、屋体14、教職員12、多目的1）</p> <p>多目的トイレ設置 1校 1基（第三中）</p>
成 果	整備により洋式便器の少ない学校の解消が図られた。
課 題	トイレ室の環境改善等。
今後の方向性	引き続き現場状況を把握し、環境整備に努める。

項 目	音楽教育振興事業補助金事業（継続）
目 的	網走市内の小中学校及び高校においてクラブ活動・部活動として行われる音楽活動をする児童・生徒が全国大会に参加する経費の一部を補助することにより、音楽教育の振興を図ることを目的とする。
取組実績	<p>網走小学校 全日本バンドフェスティバル出場</p> <p>補助額 1,771千円</p>
成 果	大会に参加する児童生徒の経費を削減することで、意欲の向上を図っている
課 題	計画を受け、効果的な実施ができていないかを精査する必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続し、音楽教育の振興に努める。

社会教育の推進

1. 生涯学習

(1) 生涯学習を進める体制や意識づくりの充実

項 目	まなび塾フェスティバルの開催（継続）
目 的	生涯学習活動を拓げるため、エコーセンター2000 を生涯学習の拠点として位置付け、市民誰もが、いつでも楽しく学び続けるためのきっかけづくり・ステップアップの場として、市民から講師・企画を募りながら実施する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・開設日： 11月23日（月・祝）10:00～17:00 ・会 場： エコーセンター2000全館 ・内 容： 市民講師、サークルによる学習屋台（デモンストレーション） <ul style="list-style-type: none"> ①わくわく体験広場 11講座 ②アトリウムロビー催事 5講座 ③伝統文化・異文化体験広場 7講座 ④ものづくり体験広場 4講座 ⑤あばしりの広場 7講座 <p>（鯨汁/網走ちゃんぼん/オホーツクの食育、あばしり学かるた体験など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者： 2,200名 ・運 営： まなび塾フェスティバル実行委員会との共催
成 果	<p>実行委員会方式とし、市民協力事業を中心に、福祉や産業などの新たな学習テーマを取り入れて開催し、開館記念日の事業として市民にも定着している。</p> <p style="text-align: center;">（平成26年度：5つの広場 33講座/参加 2,000名）</p>
課 題	エコーセンター利用サークルの活動発表を中心に実施しているが、網走市民の生涯学習の奨励となるよう更に新しい学習グループ等の参加を呼びかけていく。
今後の方向性	エコーセンターを利用するサークルの紹介・発表の場づくりのため必要な事業であり、実行委員会を設置し十分な協議の上、事業を継続していく。

項 目	網走市民大学の開催（継続）・設立40周年記念事業（新規）
目 的	幅広いジャンルの講師を招聘し、市民に学習機会を提供する事業に助成することにより、市民自らが新しい知識の習得や、教養の向上に努める文化的市民社会の形成を図る。
取組実績	<p>網走市民大学講座</p> <p>開設日：6月～11月</p> <p>開設数：8回</p> <p>会 場：エコーセンター2000</p> <p>内 容：社会・自然・芸術文化・生活・社会福祉</p> <p>参加数：登録受講者371名/延べ778名</p> <p>運 営：網走市民大学役員会</p>
成 果	<p>市民による運営によって、40周年記念にふさわしい充実した学習内容を編成することができた。</p> <p style="text-align: center;">（平成26年度：6講座 251名/延べ476名）</p>
課 題	役員会内に市民大学のあり方を検討する部会を置き、学習プログラムの編成方法などの考え方をまとめた。効果的な講師選考と、経済状況を反映して協賛金が減少していることから財政的な工夫をしながら運営を図ることが求められる。
今後の方向性	市民による運営によって、地域や生活に密着した学習内容が編成されているが、市内の他の団体・機関で企画される講演会等との情報を共有し、ねらいとテーマを明確にしたうえで講師を選定するなど工夫しながら引き続き取り組んでいく。

項目	大きなかぶ応援事業（自主学習グループ活動促進事業）の実施（継続）
目的	市内の団体・サークルが自主的に行う学習会・講習会などに対し講師謝金を助成することにより、市民の学習意欲を喚起し、生涯学習の推進を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・対象 団体・サークル会員相互の学習会、市民が参加する学習会、5名以上の参加者が見込める学習会とし、運営補助的の事業を除く。 ・要件 開催する場所・時間・形式は問わない。 年度内は1団体3回を上限とする。 講師は、日常活動の指導者を除く外部からの特別講師とする。 ・支援内容 報告書の提出に基づき、講師謝金を社会教育課が負担する。 ・事業実績 8団体10件 416名 合奏指導3、ワークショップ3・研修会等4
成果	<p>市民自らが企画する学習会を支援する制度として定着し、企画や事務手続きも円滑に行われている。</p> <p>さらに自主的な学習・活動推進の拡充のために、事業周知を行う必要がある。 (平成26年度：5団体8件 178名)</p>
課題	特定の団体の利用とならないよう幅広く学習グループの活用に配慮する。
今後の方向性	<p>市民自らが企画・運営する講座・事業を支援する制度として定着し、企画や事務手続きも円滑に行われている。</p> <p>さらに、自主的な学習・活動の推進の拡充に向けて引き続き取り組んでいく。</p>

項目	生涯学習推進指導員バンクの登録（継続）
目的	市民の学習機会を拡充し、本市における生涯学習社会の形成を図るため、豊富な経験や知識及び技能をもつ市民を「網走市生涯学習推進指導員バンク」に登録し、学習成果の還元の間を提供するとともに、学習者に指導者情報を提供することを目的とする。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・登録者 41名 ・指導内容 57項目（6部門23分野） ・指導先 学社融合事業「まちの達人出前事業」講師 網走市民まなびすと講座講師 網走市民てづくりすと講座講師 子ども講座開設事業「ロセトクラブ」講師 子ども講座開設事業「夏休み教室、冬休み教室」講師ほか
成果	<p>市民からの学習・文化活動に対するニーズは様々だが、学習相談を経て指導者情報を提供することで、市民の学習の充実が図られた。</p> <p>また、指導者への学習成果還元の間として、指導レベルに応じた指導機会を用意することができた。 (平成26年度：6部門 24分野 57項目 40名)</p>
課題	市民が求める学習内容と市民講師の指導内容とのマッチングの関係で、登録しても指導する機会のない指導者が存在する。
今後の方向性	市民の学習機会を拡充し、指導者への学習成果還元の間を提供することは、指導者の資質向上のほか、生きがいの高揚を図る上でも重要なことから、指導員の活用や周知PRなど今後も引き続き取り組んでいく。

項目	子どもと遊ぼうボランティア隊の登録（継続）
目的	地域社会全体で子どもたちの活動を支援する場の提供が求められていることから、子どもたちと楽しく活動するボランティアを広く市民から募集する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・登録者 13名 ・登録内容 工作・実験、七宝焼、パンづくり、花を楽しむ、音楽など10種類 ・実施内容 土曜日、日曜日に「ロセトクラブ」として実施 ※登録者には毎月活動のお知らせとお願いを送付している。
成果	登録された講師により「ロセトクラブ」を開催している。（32回 205名参加）
課題	登録後に指導機会がない登録者について、活動の意向確認や活動機会の創出などを検討する必要がある。
今後の方向性	趣味や特技を生かしボランティアとして活動していただいております。土日の児童の活動支援に必要な事業であることから、今後も引き続き取り組んでいく。

（2）学習情報の収集・提供・相談事業の充実

項目	広報紙、ホームページ、ソーシャルメディア等による学習情報の提供（継続）
目的	社会教育関係事業の周知を図ることにより、市民の幅広い参加を得て事業を推進する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市広報紙「広報あばしり」に「エコーだより」を掲載 ・市ホームページ、報道機関への周知、記事掲載 ・市公式フェイスブックへの情報提供 ・携帯端末への情報提供（お知らせメール@あばしり） ・小学校、中学校、幼稚園等関係機関へのチラシ等の配布 ・ポスターを作成し市内各所に掲示 ・オホーツク・文化交流センター情報コーナーの充実（サークル活動支援：作品展示、販売など）
成果	各種媒体の活用により社会教育事業の周知や活動の推進が図られた。
課題	より効果的なPRができるよう、時間的余裕をもった事業計画の立案が必要である。
今後の方向性	引き続き、読みやすく目にとまりやすいデザインなどの工夫をしながら、広報紙等での周知を図っていく。若い世代には特にHPやfbを活用し情報提供する。

（3）生涯学習関連施設の整備、機能向上

項目	市民会館改修事業（拡充）
目的	網走市民会館の修繕および運営。
取組実績	・大ホール暖房機改修 9,655千円
成果	施設設備の安全性、必要性を考慮し、優先順位の高い部分の修繕が行えた。
課題	昭和43年建築の施設であり、老朽化が激しい。緊急性の高いものより随時措置しているが、電気室、駐車場、吊物、調光器等の大規模修繕の増加が今後見込まれる。
今後の方向性	市民会館は1000人規模の集会や公演を実施するために必要な施設である。安全性、緊急性、必要性等を考慮し、安心安全な施設利用が出来るよう施設の管理運営に努める。

項目	オホーツク・文化交流センター改修事業（拡充）
目的	オホーツク・文化交流センターの修繕。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1号冷温水機ホーホール（電気関係） 5,379千円 ・ 外壁タイル修繕 680千円 ・ グランドピアノ運搬車 378千円
成果	施設設備の安全性、必要性を考慮し、優先順位の高い部分の保守および修繕が行えた。
課題	定期的な保守メンテナンスを実施しているが、開館から15年経過し、修繕の必要な部分の増加が今後見込まれる。
今後の方向性	エコーセンターは、市民の集会、公演及び生涯学習の場として重要な施設である。安全性、緊急性、必要性等を考慮し、安心安全な施設利用が出来るよう施設の管理運営に努める。

項目	図書館の祝日の振替休館としていた日の開館（拡充）
目的	開館日の拡大で、多くの市民が読書に親しむ環境づくりを推進する。
取組実績	・ 条例改正により月曜日祝日の振替休館日を廃止し開館。27年度開館増日数7日。
成果	・ 開館日7日間増で利用人数670人、貸出冊数2,655冊、来館者数2,073人の増。
課題	—
今後の方向性	利用状況を検証する。

（4）図書館の充実

項目	魅力ある図書や幅広い資料の収集・整備・提供（継続）
目的	新鮮で魅力ある図書や資料の収集を図り、利用者の幅広く情報を提供することにより、多くの市民が読書に親しむ環境づくりを推進する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料購入数・寄贈数：図書5,830冊、雑誌1,608冊、視聴覚資料32点。 ・ 図書館蔵書数：H27年度末200,037冊（地方資料24,555点を含む）
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の読書に対する興味や関心を深めるために新たな図書や資料の提供ができた。 ・ 図書貸出人数40,867人、貸出冊数181,014冊、来館者数（本館）120,863人。
課題	・ 書架スペースと収集冊数のバランスを考慮した購入と除籍。
今後の方向性	現図書館への移転に伴い購入した多くの図書が15年ほど経過し、陳腐化し古くなったものの更新を積極的に進め、魅力ある図書や資料の収集を継続する。

項目	地方資料整備事業（継続）
目的	図書館機能を活用した調べものや地域情報整備のため、網走市や北海道など地方に関する資料の収集を図る。現年度の地元新聞、地方新聞の電子化を推進する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 資料購入数・寄付数：図書 559 冊 網走タイムズ H27 年分の電子化を図り、北海道新聞全道・地方版 H27 年分 DVD を購入。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 市民が郷土を知るための新たな図書や資料の提供ができた。 地元新聞の電子化による永続保存と、保存スペースの効率的利用が図られた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 電子データ化及び保存の継続のため、人的（業務）や費用面での対応が必要。 発行年の不明な資料もあり、整理が必要。
今後の方向性	新聞資料の劣化防止を図るための保存、及び保管場所の小スペース化のため、継続した電子化保存の推進を図り、さらに、閲覧・検索の利便性向上に資する。網走市や北海道など郷土の資料は積極的に収集保管する。

項目	地域分庫事業（継続）
目的	市立図書館から遠方な地域において、読書に親しむ環境の整備と充実を図るため、地域分庫を設置する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 市内 10 箇所地域分庫の維持管理。 「分庫だより」の作成・配布（4 分庫）。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 地域分庫利用者数 1,519 人 貸出冊数 3,075 冊。 市内広域にわたる読書機会の充実が図られた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 地域や施設管理者などとの連携強化。
今後の方向性	市内全域にわたる読書環境の整備が図られており、継続開設と、蔵書整備や管理運営の充実を図っていく。

項目	ふるさと学習支援事業（継続）
目的	地域情報の発信を図書館の役割とし、市民にふるさと網走を学習する機会や資料の提供を図るとともに、小中学生に対する地域学習の支援を行う。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 「水のチカラで健康になろう - 体にいいことはじめませんか -」「スポーツ合宿でおなじみ ラグビーの世界を知ろう」「全国鯨フォーラム 2015・網走 北の捕鯨基地網走」「図書館のあゆみ - あばしりの歴史とともに -」と企画展示を年 4 回開催した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 企画展示は各約 2 週間開催。4 回の展示期間中の来館者は 23,145 人。 企画展示や「ふるさとあばしりコーナー」設置により、地方資料を紹介。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 地方資料の利用状況等に基づく魅力ある資料展示の検討。 単発的な展示紹介から、収集した資料の継続的利用方法の検討が必要。
今後の方向性	ふるさとあばしりコーナーへの資料充実などを通して、市民へふるさとの紹介と学習機会の提供を継続する。

項目	インターネットを活用した蔵書公開（継続）
目的	インターネットを活用した利用者サービスの向上。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 平成 19 年よりインターネット（図書館ホームページ）による所蔵資料の検索、新着・新刊案内、各種お知らせ、予約サービス（登録者のみ）等を実施している。 平成 26 年度に図書館管理システムを更新し、スマホ等対応の利用サービスシステムを構築。
成果	<ul style="list-style-type: none"> H27 年度 アクセス数 302,214 件、パスワード新規登録者 89 名。 予約サービス利用 6,632 件。うち Web 予約利用 2,179 件。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 図書館事業や利用方法の周知など、ホームページの定期的な内容更新が必要。
今後の方向性	今後もホームページの内容を精査し、情報提供を行う。予約等における業務効率向上のため、メールによる対応を進める。

項目	利用者用タブレットパソコンの貸し出し（継続）
目的	インターネットによる調べものに対応できる機器を整備し、来館者の調べものニーズに対するサポート機能の充実を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 調べ物等をサポートするため、タブレット型パソコン 3 台を H24 年度に設置。
成果	<ul style="list-style-type: none"> H27 年度延べ利用者数 575 名。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 来館者の利用拡大のため、周知 PR が必要。
今後の方向性	今後も利用 PR に努める。

項目	無断持出感知システムの更新（拡充）
目的	図書館二階の地方資料コーナーには、網走・北海道などの貴重な資料が多いため、亡失・盗難を防止するため、システムを維持する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 感知ゲート 1 箇所を H27 年度に更新。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 貴重な資料の亡失・盗難の防止が図られた
課題	<ul style="list-style-type: none"> 1 階図書資料についての保全体制の検討
今後の方向性	良好な状態での維持管理に努める。

（5）読書の普及、読書活動の促進

項目	課題解決型常設展示（健康・料理、その他）（継続）
目的	図書館の本は、公共図書館・学校図書館のほとんどで日本十進分類法により分類され配置されているが、代表的な一つの分類しかできない。そのため、分類番号は異なっても健康や料理などテーマでまとめて配置することで、利用者の利便性を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 「生活の本のコーナー」として、日本十進分類法とは別に配置している。
成果	<ul style="list-style-type: none"> このコーナーを活用することで、図書館の活用の導入口となっている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 全ての本をこの方法では配置できない
今後の方向性	配置する本の見直しをしながら、利用者に喜ばれるコーナーをめざす。

項目	ブックスタート事業の実施（継続）
目的	乳幼児期から本に親しむ環境を整え、図書館の利用環境向上を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・H23年度より0歳児とその保護者に絵本と図書館利用パンフレットを贈呈した。 ・子ども名の貸し出しカードを作成し、図書館利用を推進した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者281名のうち234名に絵本とパンフレットを贈呈。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自分で本を読む年齢になるまでのフォローアップが必要。（H23年度よりフォローアップ事業「ゼロ歳児への読み聞かせ」を開始。）
今後の方向性	乳幼児期から本に親しむことで、生涯を通じた読書活動へ結びつくよう引き続き実施していく。

項目	学校巡回図書（クリオネ文庫）推進事業（継続）
目的	図書館と小学校が連携し、図書館の本を各学級に配置することで、子どもの読書活動の機会を充実させる。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の身近な場所（学校）で本に親しむ環境作りを進めるため、小学校各学級に30冊ずつの図書を配置した（1ヶ月ごと巡回）。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・配置学級数75学級。利用図書3,510冊。 ・学校での短い休み時間や授業等で活用されている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の協力なしでは実施できないものであり、引き続き学校の理解が必要。 ・学校図書とのすみ分け、連携が課題。
今後の方向性	子どもの読書活動の一つとして定着してきており、本の入れ替えを行いながら、継続して実施する。

項目	ブックトーク事業の実施（継続）
目的	子どもの読書への動機付けをする読書教育の一つと言われるブックトークを行い、子どもたちの読書への関心や読書習慣を育む。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・J P I C 読書アドバイザーによる講演会を、小学校9校で14講座開催。 ・網走の子どもたちが生涯に一度はブックトークを経験出来るよう、27年度より学校のご協力で、全ての6年生に実施。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・網小（6年1組）22名（6年2組）22名、東小（5・6年生）17名、呼人小（5・6年生）18名、白鳥台小（5・6年生）16名、中央小（6年1組）22名（6年2組）23名、南小（6年1組）40名（6年2組）39名、潮見小（6年1組）29名（6年2組）32名（6年3組）29名、西小（6年生）29名、西が丘小（6年生）15名 合計353名の児童が参加。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の協力なしでは実施できないものであり、引き続き学校の理解が必要。
今後の方向性	ブックトークによる子どもたちの反応は、すぐ関心を持つ子や後になって関心を示す子など個人差もあり、今後も継続した取組みが必要である。

項目	子ども読書週間記念事業の開催（継続）
目的	子どもの読書への関心や興味を高め、読書活動の推進と図書館の利用促進を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 子ども読書週間記念イベントの開催。 「おたのしみ劇場ガウチョス」マリオネット公演 5/17 開催。 180名 図書館企画展示「永く愛されてきた絵本たち」特別展示。150冊 4/23～5/17
成果	<ul style="list-style-type: none"> イベントに180名の参加があり、親子で図書館に親しむ機会の充実と子どもの読書活動の推進に寄与できた。 親子で読み継がれる絵本の展示で関心が高かった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 工夫を凝らした事業の開催が必要。
今後の方向性	継続した記念事業を開催し、子ども達の読書活動の推進を図る。
項目	よみきかせ会・お楽しみ会等の開催（継続）
目的	子どもの読書への関心や興味を高め、読書活動の推進を図ると共に、乳幼児を含めた読書環境の整備を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 毎週土曜日「よみきかせ会」、夏・冬休みお楽しみ会開催。一日図書館員体験。 毎週の読み聞かせ会は高校生を含むボランティア団体により実施。
成果	<ul style="list-style-type: none"> えほんのもり読み聞かせ会 47回 555名参加。子育て支援センター読み聞かせ会 3回 68名。夏・冬お楽しみ会 2回 144名参加。一日図書館員体験 11名参加。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 事業PRによる参加者の拡大。 ボランティア団体の会員減少に伴う協力内容の縮小。
今後の方向性	子どもの読書活動の推進において必要な事業であり、継続して開催する。

項目	福祉コーナーの充実（継続）
目的	高齢者や障がい者が図書館を活用して生涯学習を進めるため、図書館内に福祉コーナーを設置する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 福祉コーナーの設置。（アームルーペ、拡大読書機） 大活字本の配置。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者を中心とする多くの来館者に利用されている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 目の不自由な方、耳の不自由な方といった障がいにあわせたサービスの実施。
今後の方向性	市民の読書活動の推進において必要なコーナーであり、継続して維持していく。

項目	ボランティア団体等との協働による読書機会の充実（継続）
目的	読書活動に対する多様なニーズに対し、図書館ボランティアとの協力により幅広い読書活動の推進を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 対面朗読サービス、視聴覚障がいの方々への録音サービスの実施、乳幼児向け布絵本の作成、えほんのもりでの読み聞かせ、高齢者施設等での読み聞かせなどを実施。 図書館まつり、蔵書点検等への協力。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 点字翻訳や朗読CD作成など幅広い読書サービスの提供が出来た。 図書館まつりではボランティアによる古本市が実施され、多くの市民に喜ばれている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアと図書館職員との相互理解と協力が必要。 ボランティアの新たな人材の確保。
今後の方向性	幅広い読書活動の推進のため、今後もボランティア団体と協力した事業を継続する。

項目	ボランティア養成事業（継続）
目的	ボランティア団体への学習機会を提供することにより、ボランティア活動を支援し、市民と協働の図書館活動を充実する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招いたよみきかせ実践講座、中級・上級朗読講座を開催。 ・ボランティア団体のメンバーが講師となり、布絵本作成講習会の開催。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・4/18 よみきかせ実践講座 30 名、10/7 中級朗読講座 8 名、10/8 上級朗読講座 5 名参加。 ・9/3・9/10 布絵本作成講習会開催のべ 11 名参加。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の内容充実と参加者拡大のための講座等内容の工夫が必要。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なボランティア活動があるため、各団体からの意見を聞きながら、必要に応じた講習会などを今後も開催していく。

項目	図書館まつりの開催（継続）
目的	図書館活動のPRによる図書館の利用促進と、市民の読書活動の推進に寄与する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・10月18日（日）開催。古本市、人形劇公演、子ども俳句・短歌大会、ニポネ応援ぬり絵展、ミニチュア森の動物家族展、「あの頃の網走～写真と地図でめぐる～」
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者 800 名。図書館の利用促進及び読書活動の推進が図られた。 ・古本市、人形劇公演はボランティアにより実施。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も関係団体へ協力を依頼し、連携した事業内容や展示の工夫が必要。
今後の方向性	市民の図書館利用のきっかけとなることから、今後も市民に親しまれる事業として継続開催していく。

項目	読書ノートの整備（拡充）
目的	小中学生が読書に親しむきっかけとする。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・読書週間（10/27～11/9）にあわせて、10/27 より配布開始。27 年度は小学生向け 89 冊、中学生向け 10 冊配布。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生だけではなく、大人の方からも作成を希望する声があった。 ・図書館ホームページに様式を掲載したところ、この様式を利用して学校で読書ノートを活用する小学校もあった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も利用推進に向け、子どもの読書習慣記念事業などと連携したPRが必要。
今後の方向性	今後も継続し普及を進める。

2. 社会教育

(1) すべての市民に開かれた学習の場の提供と学習環境の整備

項目	網走市民まなびすと講座の開設（継続）
目的	市民生活向上に関わる地域課題や現代的な課題を学習テーマとして開設する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・原子模型を作ろう 12名 ・ウィルタ刺繍入門講座 全6回 7名（延39名） ・U-35でスイーツ作り「パティシエール梅崎さんのスイーツ講座」全2回 青年16名 ・子どもに自慢したい大人のための科学モノづくり講座 15名（北海道科学大学連携）
成果	<p>網走独特の講座であるウィルタ刺繍講座は、サークルが指導を担い、文化の継承に貢献している。</p> <p>また、北海道科学大学連携講座は、幅広い世代の市民が科学の知識を広げる機会となり、受講者が科学フェスティバルの指導者やボランティアに関わるきっかけやボランティアのスキルアップの機会となった。U-35講座は同世代の交流機会となった。</p>
課題	市民が地域での問題点や課題を解決するきっかけとなる学習の機会として、常に地域や市民活動に関心を払っていかなければならない。
今後の方向性	社会情勢や地域の課題、市民の活動等に関心を払いながら学習機会を提供していく。

項目	暮らしいきいきフォーラムの開催（継続）
目的	市民一人ひとりが家庭や学校、地域社会で男女平等の意識を高めるよう、女性学・男女共同参画を学習する視点で、講演会を開設する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・開設日： 10月28日 18:30～20:15 ・会場： エコーセンター2000 大会議室 ・講師： NPO法人ファザーリングジャパン 安藤哲也 氏 ・テーマ： 働きたい子育てもしたい～笑顔の父親と母親を増やすために～ ・参加者： 53名
成果	男性・女性それぞれが、仕事と家庭を両立するために必要な環境について学ぶ機会となった。
課題	女性学（男性学）を視点とした講座内容や講師を選考しているが、男性参加者や20～40才代の青年女性層などの参加拡大を検討する必要がある。
今後の方向性	女性学・男女共同参画に関しての学習機会を、男女を問わず多様な年齢層の市民に拡大していくため、講演内容や開設方法を研究する。

項目	あばしり学講座の開設（継続）
目的	あばしりの魅力や価値を再発見、再確認するために自然景観や歴史的資源を活用するとともに、歴史・文化・産業等を講座とし、参加者同士の交流を深め、学びからまちづくりやひとづくりを進め地域の活性化を目指す。
取組実績	<p>対象 小学生以上の市民 期間 7月18日～3月26日 参加者 延べ254名</p> <p>講座 ① 7月18日 「網走湖徹底調査&網走川下り！」 参加者 20名 ② 8月 4日 意外と知られていない『卯原内ダムたんけん』 参加者 19名 ③ 10月25日 美岬の森をたんけん！ 悪天候中止 ④ 12月13日 新・流水館で学ぶ流水の神秘 参加者 14名 ⑤ 1月13日～2月9日 U-35で「雪像づくり」 参加者 19名（延97名） ⑥ 3月26日 天都山であばしり学！ 参加者 6名</p> <p>親子講座① 9月12日, 10月14日 網走産の「かぢゃ」で作ろうジャックオランタン（全2回） 1日目【収穫体験】2日目【ジャックオランタンづくり】 参加者 22名 ②1月13日～2月9日 「親子で雪像づくり」（全6回） 参加者 延76名</p>
成果	網走を学びたい方なら誰でも参加できる講座として新たな参加者を得ることができた。また、親子講座の設定により、家庭内であばしりの魅力を共有する機会をつくることが出来た。
課題	今後も継続して実施する必要があるため、まちづくりや人づくりにつながる題材の発掘や手法の工夫による魅力ある講座の発掘が大切である。また、開催回数より講座内容を吟味し目的や効果を確認しながら息の長い事業とする必要がある。
今後の方向性	長期に継続することで成果が見えてくることから、参加者同士の交流も含め、他関係機関の協力を得ながら網走の魅力の発信と新たな文化の創造につながるよう継続していく。

項目	寿大学の開設（継続）・設立50周年記念事業（新規）
目的	激しい社会の変化に適応するために必要な知識や生活技術を習得し、健康を維持し、積極的な高齢者の生きがいを求める学習を提供する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・大学 <p>開設 4月～翌年3月／第2・第4水曜日／午前10時～正午 会場 エコーセンター2000「エコーホール」ほか 内容 一般教養、クラブ活動、自治会活動 開設数：20回 参加数 180名（1年32名、2年12名、3年15名、4年15名、生涯研究生106名） 自治会 ボランティア活動、課外学習など 19回</p> ・大学院 <p>開設日 4月～翌年3月／第4木曜日／午前10時～11時30分 会場 エコーセンター2000「研修室」 内容 郷土史コース、自分史コース 開設数：10回 参加数：20名（1年14名、2年6名）</p> ・50周年記念事業 <p>①50周年記念式典 7月22日 ②50周年の歩み展 8月24日～26日 ③語り劇「中川イセ物語」網走公演、寿大学生鑑賞 8月26日 ④寿大学校歌制作 ⑤50周年記念誌発行</p>
成果	高齢者の生きがいや生活技術の習得を目的とした学習内容を設け、社会参加の促進のために必要な学習機会を自治会の協力により提供できた。設立50周年の記念事業により高齢者の学習意欲の更なる高揚と市民に対して寿大学の活動を理解してもらう機会となった。（平成26年度：寿大学 参加186名、寿大学院 参加13名）
課題	一般教養講座では、大学生の生活課題を学習テーマとし、クラブ活動や自治会活動を通して学んだ成果を社会参加やボランティア活動に繋げることを奨励する必要がある。
今後の方向性	高齢者の学習意欲に対応するほか、自治会活動、サークル活動をとおして社会参加を促進することにより、健康維持をはじめ高齢者の知識や技術等を後世に伝える大切さを指導していく。

(2) 子どものための学習や体験の場の提供

項目	放課後子ども教室推進事業（継続）
目的	子どもたちの安全で安心な活動拠点づくりのために、国費補助を受け、放課後や週末に地域の方々の参画を得て、子どもたちに勉強やスポーツ・文化活動、交流・体験活動の場を提供する。（遊村あばしり）
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・開設日：5月～翌年2月／平日 午後3時～午後5時／休日 午前10時～正午 ・開設数：422回 ・会場：市内7カ所（コミュニティセンターほか） ・指導者：市内NPO法人ほか4団体 ・内容：①スポーツゲーム、トランポリン、体育の苦手な子のための体育教室、音楽 ②アート体験 ③昔遊び、工作、学習、書道、スポーツ、季節の遊びほか ・参加数：延べ4,829名
成果	<p>NPO法人等が有償ボランティア活動として実行委員会を組織し、それぞれの団体の個性を活かした学習・体験プログラムが提供され、障がいをもった子どもたちを含めて、放課後や週末に安全で安心な居場所を開設できた。</p> <p style="text-align: center;">（平成26年度：409回開設、4,012名参加）</p>
課題	文部科学省の補助金の今後の見通しが不透明のなか、教室の安定的な運営を図る必要がある。
今後の方向性	地域の指導者や安全な活動場所の確保を図りながら引き続き取り組んでいく

項目	あばしり科学フェスティバルの開催（継続）
目的	子どもたちが大勢集まり、様々に楽しめる空間や、日常の遊びのヒントになるような場を提供し、遊びから培われる「子ども文化」の醸成を支援する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・あばしり科学フェスティバル 目的：子どもたちの理科離れが進む傾向の中、実験などを通して理科や算数を身近なものとして捉え、子どもたちの科学への関心を高める。 開催日：7月5日（日）午前9時30分～12時30分 運営：ボランティアスタッフによる実行委員会との共催 内容：科学の原理に基づいたモノづくりや実験などの16コーナー及びサイエンスショー 参加者：292名、ボランティアスタッフ 85名
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が組織する実行委員会による運営が定着しており、子どもたちが理科や算数の原理を身近なものとして捉えることができる機会を創出できた。 ・市民ボランティアが子どもたちのためにつながり、オホーツク・文化交流センターの施設機能を活用し、子どもたちが大勢集まり様々に楽しめる空間が提供できた。 <p style="text-align: center;">（平成26年度：参加者 268名、ボランティアスタッフ 100名）</p>
課題	一過性のイベントとならないように、宇宙の学校や各種教室など、子どもたちの科学する心を育む事業と連動しながら実施する。指導者の育成を充実させ、多くの機会に学校や家庭では体験できない内容の学習を提供する必要がある。
今後の方向性	事業の継続実施と内容向上を図るため、成人講座開設事業の中で成人向け科学講座を開催するなどして、市民指導者の養成に更に努めていく。

項 目	夏・冬休み教室の開催（継続）
目 的	子どもの創造性や探求心を高めるとともに、個性や自主性を向上させる。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏休み教室 「おとなりの国 韓国の料理をじゃがいもで作って食べよう！」（指導：下道孝禎氏） 7月27日 午前10時～12時 小学1～6年生 17名 「ドライアイスで遊ぼう！」（指導：林秀明氏） 8月6日 午前10時～11時20分 小学1～6年生 21名 ・ 冬休み教室 「そらとぶふしぎ!?を楽しもう」（指導：蔦林隆志氏） 1月12日 午前10時～12時 小学1～6年生 15名 「くるくるおどるリモコンカー作り」（指導：北海道科学大学 木村教授） 1月14日 午前10時～12時 小学4～6年生 18名
成 果	<p>家庭、学校、地域の教育力の実態に配慮しながら、これを補完する形で子どもの心身の健康・成長を助長する学習機会を提供できた。</p> <p style="text-align: center;">（平成26年度：夏休み・冬休み教室 3教室／ 97名）</p>
課 題	子どもを対象とした創作体験事業を検証・評価し、網走の魅力や価値に関心を寄せることができる学習プログラムを今後も引き続き検討する必要がある。
今後の方向性	夏休み・冬休み教室では、科学や宇宙に関する内容をはじめ、多様な学習プログラムを検討していく。

項 目	ロセトクラブの開催（継続）
目 的	子どもの余暇の充実のため、市民ボランティア指導者により子どもの創造性や探求心を高めるとともに、個性や自主性を向上させる。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロセトクラブ（短期） 4月～翌年3月／18回 155名 内 容：パン作り、親子電子工作、手づくり動くおもちゃ工作、アクセサリ作り、生け花、七宝焼など ・ ロセトクラブ（長期） 5月～3月／14回 14名（延べ50名） 内 容：バイオリン、琴 指導者：登録 10種類13名（子どもと遊ぼうボランティア隊）
成 果	<p>家庭、学校、地域の教育力の実態に配慮しながら、これを補完する形で子どもの心身の健康・成長を助長する学習機会を提供できた。</p> <p style="text-align: center;">（平成26年度：短期 21回／263名 長期 22回／22名 延べ124名）</p>
課 題	基本的に市民ボランティアの自主運営としているため、指導者の都合により開催時期や人数などで参加者ニーズに合わない場合がある。
今後の方向性	指導者と職員が連携を図り、より効果的な運営方法を研究していく。

項 目	あばしり学ファンコースの開設（継続）
目 的	あばしり学講座と同様に、網走について学ぶ機会を年代別に提供し、その中で仲間の交流を中心に学習を深める。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> あばしり学ファンコース カムイコース（大学生～一般） 登録者3名 全体会 5回 網走なるほどカレンダー
成 果	テーマや学習場所を自分たちで計画し実行することで仲間意識が生まれ、学習成果へとつなげることができた。
課 題	学習成果の発表の方法やプログラム設定の考え方などコースの在り方の検討が必要である。
今後の方向性	あばしり学本体とのバランスを配慮しながら実施を検討していく。

項 目	子どもと動物ふれあい事業（継続）
目 的	動物とのふれあいは、子どもの情操の発達に有効であることから、子どもたちに動物とふれあう機会を設け、生命を大切にし、心豊かな子どもの育成を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 開設日：6月～9月 指定日曜日 午後1時～3時45分 開設数：7回（ほか、雨天のため1回中止） 会 場：呼人スポーツトレーニングフィールド及び大曲湖畔園地 内 容：うさぎ、モルモット、ヒヨコ、ハムスター 入場者：1,962名（子ども 996名、おとな 966名）
成 果	子どもにとって、動物との接触は楽しく稀な体験であり、情操の発達に役立っている。 （平成26年度 入場者 合計2,681名／子ども1,355名、おとな1,326名）
課 題	大曲湖畔園地をはじめ、他の地区での開園についての検討。
今後の方向性	例年、多数の親子入場者がいることから、今後も引き続き実施する。

（3）学習成果を還元する機会の充実

項 目	網走市民てづくりすと講座の開催（継続）
目 的	市民が自ら講座を開設する支援をし、指導技術の向上やサークル活動の活性化を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> てづくりすと講座 <ul style="list-style-type: none"> 市民の学習成果を「講座」という形にし、市民の学習要求に応える。 書道2件、ヒンメリ作り 3講座7回 参加 26名（延べ62名）
成 果	市民やサークルのボランティア講師により、多彩な内容の成人講座を開設することができた。 （平成26年度：料理ほか3分野／7講座13回／参加79名 延べ119名）
課 題	市民の要望に応え、募集、施設利用、講座運営の指導などを支援しているが、講座開設の時期や同種類の講座開設など偏りが見られる。
今後の方向性	講座により参加人数にばらつきが見られるが、学習グループの育成に努めながら要望に応じて事業を継続する。

項目	学校支援地域本部事業の実施（継続）
目的	家庭・学校・地域が一体となって、地域ぐるみで子どもを育てる体制を整える。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援活動 15校 41件 ボランティア延人数 452名 ・部活動指導補助 1校 2件 ボランティア延人数 111名 ・環境整備支援 2校 3件 ボランティア延人数 29名 ・登下校安全指導 8校 11件 ボランティア延人数 3,102名 ・学校行事補助 2校 3件 ボランティア延人数 5名 ・その他の支援 6校 16件 ボランティア延人数 778名
成果	国の委託事業で平成 20 年度途中から取り組み、平成 23 年度から補助事業へ移行したため、市の負担（1/3）が生じることとなったが、事業についての市民、教員の理解も進み、活動が定着している。
課題	登録者数と派遣要望内容に隔たりがあることや、学校からの要望に対応できるボランティアが限られているなどの課題がある。文部科学省の補助の今後の見通しが不透明である。
今後の方向性	学校教育・社会教育・地域の連携を進めるため、今後も実施に努めていく。

項目	学社融合事業「まちの達人出前事業」の実施（継続）
目的	学校の求めに応じ、豊富な経験や知識・技能をもつ市民を授業講師として派遣する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・対象 市内小中学校の授業 ・要件 1校あたり2回を上限とする。授業時間は、1回2時間程度とする。 ・支援内容 講師謝金について社会教育課が支援する。 ・事業実績 8校15件 市民講師 7名2団体。 総合学習(8)、体育(4)、音楽、家庭科、特別活動
成果	総合的な学習の時間を中心に、郷土の歴史・文化・福祉を学ぶために地元の人材が活用されている。また、音楽・体育などの専門的な科目において、技術・知識を持つ市民が指導に当たることができた。（平成 26 年度：8 校 16 件）
課題	「学校支援地域本部事業」と本事業の調整を図り、市民の力で網走の子どもたちの学習を支援する事業として定着させていくことが必要である。
今後の方向性	各学校によって活用の多寡があるため、学校職員への周知に努めながら引き続き取り組む。また、「学校支援地域本部事業」も含めた中で、市民の学習成果の社会還元の一つとして推進を図っていく。

3. 家庭教育

(1) 家庭教育の支援

項目	家庭教育学級、父親の家庭教育支援、家庭教育フォーラムの開催（継続）
目的	生活や地域課題に基づいた講座を開設し、豊かな市民生活を支援する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育学級 小学校（中央小学校） 10月 2日 参加者 127名 中学校（第三中学校）2月16日 参加者 170名 郊外地区（西が丘小学校）11月28日 荒天中止 ・父親の家庭教育支援事業（南建設）5月14日 参加者 15名 ・家庭教育フォーラム兼網走市PTA連合会研究大会 内容 10月10日 エコーホール 参加者 197名 講演「大人が変われば子どもが変わる ～地域で家族でみんなで子育て～」 講師 大阪府認定子ども家庭サポーター 辻由起子
成果	<p>家庭教育学級は、年度ごとのローテーションにより、各単位PTAの自主的な企画で、年齢や地域的な個別テーマにより実施しており、参加者も多い。</p> <p>（平成26年度：家庭教育学級 小学校75名、中学校 38名 郡部地区72名、父親の家庭教育支援事業 1回18名、家庭教育フォーラム230名）</p>
課題	学校やPTAなどとの連携による事業のため、取り組む過程の中で事業目的についての共通理解を得ることが必要である。
今後の方向性	子育て・家庭教育に関する講座は、教育委員会の趣旨を充分伝え、PTA等の市民の声を反映させたプログラムの編成を行いながら実施する。

項目	豊かな心を育てる活動推進会議事業の支援（継続）
目的	子どもたちの豊かな心を育てる啓発活動を行う「豊かな心を育てる活動推進会議」が行う事業を支援する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ」「親切」「環境美化」「命の大切さ」「勇気」「やり抜く」「はきものを揃える」をテーマに、啓発活動を行う。 ・豊かな心を育てる小中学生の意見発表会 発表者：市内小中学生15名（小学生9名、中学生6名）、聴衆者170名 ※第一中学校代表を少年の主張オホーツク地区大会へ推薦 ・啓発活動、標語募集 啓発活動：あいさつ運動のポスター、チラシによる啓発 標語募集：4部門の標語を募集し、入選30作品を活用したカレンダー作成 応募数 1,723点
成果	<p>豊かな心を育てる活動推進会議は、青少年健全育成を推進する全市的な組織で、構成団体の活動実践を基礎にした情報交換と、全市的な課題に対応するための協議体として重要な存在となっており、学校とも連携していることから、啓発活動が全市的に進められた。（平成26年度：標語応募 1,926点）</p>
課題	豊かな心を育てる小中学生の意見発表会の聴衆を増やすために、周知方法の更なる検討が必要である。組織団体の交流を図る必要がある。
今後の方向性	青少年の健全育成を推進するために必要な取り組みであり、今後も推進していく。

項目	親と子のふれあい教室（継続）
目的	1歳半～3歳の幼児を育てる親のために基本的な生活について親子で指導を受けると共に親同士の交流の場となるよう開催する
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・親と子のふれあい教室第1期 6月3日～6月24日(計4回) 延40組 ・親と子のふれあい教室第2期 11月5日～11月26日(計4回) 延58組 ① おうちでできる救急講座（消防署救急係職員） ② 食育「食べることって楽しい」（市保健センター管理栄養士） ③ おやつクッキング（市保健センター管理栄養士） ④ ひとりのできるかな（保育園保育士）
成果	要望の多い講座内容を組み込んだため、参加者の満足度が高かった。また、初めて子育てする親なども多く、親同士が和やかに交流する機会となった。
課題	子育ての不安などを聞き取り、解決できるような内容を研究し、若い子育て世代の居場所、ネットワークづくりにつなげていく必要がある。
今後の方向性	保健センター、子育て支援センターの取り組みと情報を共有しながら取り組んでいく。

項目	幼児を育てる親の子育て講演会（継続）
目的	近年の都市化、核家族化、少子化の影響により、子どもを育てることが難しくなってきたており、子育てに迷い、悩みを抱く親が多くなっていることから、幼児期の子育てに精通した講師を招き、情報の提供を行い、不安の解消に努める。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「わが子のよいところ20言えますか～子どもを「よく」見ると伸びる不思議」 日 時：平成27年7月1日 午前10時～12時 場 所：エコーセンター2000 大会議室 参加者：104名 講 師：汐見 稔幸 氏（白梅学園大学学長）
成果	託児を拡大し、多くの受講者が託児を利用しながら受講することが出来た。 (平成26年度：参加者 26名)
課題	より多くの市民に参加を拡大していく中で、託児の対応について研究が必要。
今後の方向性	子育て支援センターや保育施設などと意見交換、情報交換を行いながら、内容の充実を図っていく。

4. 芸術文化

(1) 文化活動の促進

項目	文化団体の活動支援（継続）
目的	市内文化団体で構成される網走市文化連盟が、広く市民対象に行う郷土文化振興事業に対して助成することにより、市民文化の振興・発展を図る。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 第16回市民フェスティバル（9月～12月） ・展示部門 ① 手工芸・俳句展 7月29～8月2日 ② 華道展 9月5,6日 ③ 絵画展 9月9～13日 ④ 子ども書道展 9月16～20日 ⑤ 盆栽展 10月9～11日 ⑥ 淡交会呈茶 11月1日 ⑦ 子ども創作展 11月13～18日 ⑧ 写真展 11月25～29日 ⑨ 陶芸展 12月2～6日 ⑩ 書道展 12月9～13日 ・舞台部門 ① 舞台芸能発表会 10月18日 ② 合唱祭 11月1日
成果	広範で多岐にわたる芸術文化活動の発表の場を主体的に実施している文化連盟の活動を支援することにより、市民生活や生涯学習の観点に立った芸術文化活動の推進を図ることができた。
課題	文化連盟の自主性を発揮した取り組みがなされており、現状で課題はない。
今後の方向性	市民の文化団体活動の振興・発展のため必要な助成事業であり今後も引き続き実施する。

項目	オホーツク・アートセミナーの開催支援（継続）
目的	市民に音楽や美術に関する質の高い優れた表現技法を専門講師から学ぶ機会を提供する事業に助成することにより、地域の芸術活動の活性化をはかる。
取組実績	<p>・音楽部門</p> <p>① バンドクリニックⅠ・Ⅱ・Ⅲ 開催時期 Ⅰ：7月27・28日 Ⅱ：7月24～26日 Ⅲ：10月7日 会場 エコーセンター2000、市民会館、各学校 受講対象 網走小、第一中、網走吹奏楽団、南ヶ丘高、桂陽高、第二中、第三中 内容 音楽活動への意欲及び表現力を学ぶ 受講者 325名（Ⅰ：77名2校 Ⅱ：225名4校1団体 Ⅲ：23名5校1団体） 指導者 バンドディレクター 栗村典弘氏・ネバダ大学教授 鈴木 孝佳氏 サクソフォン奏者 北口 智宏氏・旭川地区吹奏楽連盟理事 佐藤 淳氏 サクソフォン奏者 國来貞仁・山田忠臣</p> <p>① リコーダークリニック 開催日 第1期 9月7日 第2期 12月25日 会場 第五中学校、第三中学校 内容 リコーダーの演奏技術の向上を図る 受講者 第1期 28名 第2期 20名 指導者 リコーダー奏者 金子 健治 氏</p> <p>② 歌曲講座 「歌曲への招待～シューベルト」 開催日 10月10日 会場 エコーセンター2000 内容 古典歌曲の興味関心を高め、クラシック音楽の楽しみ方を学ぶ。 受講者 19名 指導者 声楽家 谷 篤 氏</p> <p>・美術部門</p> <p>① 描画講座 開催日 2月23, 24日 会場 網走市立美術館 内容 「人物画の基本」 受講者 10名 指導者 筑波大学芸術系教授 玉川信一氏</p> <p>②デザイン講座 Ⅰ 「マンガ・イラストを描こう3」 Ⅱ：キャンドルづくり 開催日 Ⅰ 1月23, 24日 Ⅱ 1月15～17日 会場 網走市立美術館ほか 内容 Ⅰ マンガやイラストを描く講座 Ⅱ 「キャンドルづくり」 受講者 Ⅰ 10名 Ⅱ：24名 指導者 Ⅰ 札幌大谷短大メディアデザイン学科 島名 毅 氏 Ⅱ 山本 成治 氏ほか</p>
成果	国内一線級の専門講師の指導による表現技法の学習により、主体的で創造的な地域文化の活性化が図られた。
課題	自主的な運営が図られており、特に問題はなく、継続して助成する。
今後の方向性	引き続き支援を実施する。

項目	芸術文化合宿誘致事業への支援（継続）
目的	芸術文化団体の合宿受け入れにより市民との交流を推進し、芸術文化の向上に寄与する事業に助成を行い、芸術文化活動の活動拠点となる体制作りを目指す。
取組実績	①書創社 39名 作品制作8月1～2日 展示8月14日～20日 ②打楽器と吹奏楽の祭典実行委員会 6名 12月24～26日 「市内高校生との合同練習及び成果発表会」 ③北海道旭川商業高等学校吹奏学部 88名 3月19～20日 「市内中学生との合同練習及び成果発表会」 ・支援内容 会場使用料、広報の支援、その他相談等 ・運営 芸術文化合宿実行委員会
成果	市外の芸術団体が市内に滞在し、芸術文化活動やコンサートによる市民及び市内団体との交流活動を行った。まちの賑わいを創出しながら、市民の芸術文化に関する関心を深める機会となった。
課題	芸術・文化団体の合宿地として定着するためには支援体制と併せ、合宿先として選択されるための魅力ある資源のPR活動が必要となる。
今後の方向性	市民による実行委員会が主体となって、合宿団体への支援体制や網走の魅力について広報PRを図っていく。

項目	文化芸術振興褒奨金事業（拡充）
目的	文化芸術分野において、全国大会等に出場する個人・団体等へ支援を行い、文化芸術の振興を図る。
取組実績	①オホーツク岳風会網走支部（一般） 全国吟道大会出場
成果	予選を経て全国大会へ出場した文化芸術団体へ支援を行い、市民の文化芸術に対する意欲の高揚が図られた。
課題	事業の活用のためには更なる周知広報が必要。
今後の方向性	文化芸術活動の意欲向上のため、広報PRを図っていく。

（２）鑑賞機会の拡大

項目	あばしりファミリー劇場（継続）
目的	子どもたちに、質の高い優れた舞台芸術鑑賞を提供する事業に助成し、子どもたちの舞台芸術に対する関心を高め、情操豊かな人格形成をめざす。
取組実績	・開催日 9月19日（土）午後2時～3時10分 ・内容 TAP DO! タップダンス・エンターテイメントショー～リズム&コメディ～ ・会場 市民会館 大ホール ・入場者 461名 ・運営 あばしりファミリー劇場実行委員会
成果	幼児が家族と一緒に楽しめる数少ない芸術鑑賞事業であり、市民による運営も定着している。（平成26年度入場者 672名）
課題	現状の予算規模での公演選考に実行委員会が苦慮している。
今後の方向性	親子で一緒に鑑賞できる数少ない芸術文化事業であり、引き続き実施する。

項目	アトリウムロビーコンサートの開催（継続）
目的	誰でも気軽に芸術文化を鑑賞できる場を用意し、文化振興をはかるとともに、エコーセンター2000が市民に開かれ、親しみやすい施設となることをめざす。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・開設日 4月～翌年3月 土曜日 午前11時30分～12時30分 ・開設数 14回 ・内容 合唱、楽器アンサンブル、詩吟、大正琴、ピアノ、ヴァイオリンほか ・来場者 1,195名
成果	アトリウムロビーの空間と設備を活用することで、経費負担もなく発表の機会が得られ、音楽愛好者の底辺拡大に資することができた。 出演者が主体的に準備、運営、後片付けを行うことで、コンサート可能日を増やしながらか実施できた。（平成26年度：17回／聴衆者1,464名）
課題	複数回出演している団体に自主性を促す必要がある。
今後の方向性	演奏時間の延長や複数団体の出演など、より出演者の自由度が増した魅力あるコンサートづくりを進める。

項目	オホーツク・文化交流センター芸術文化事業の開催（継続）
目的	優れた芸術文化の鑑賞機会を市民に提供するため、市民企画などを取り入れオホーツク・文化交流センター主催事業として実施する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・オホーツク・文化交流センター芸術文化事業 <ul style="list-style-type: none"> ①村下孝蔵17回忌追悼七夕コンサート 開催日 7月10日（金）午後7時～8時30分 会場 エコーセンター2000 エコーホール 内容 村下孝蔵ゆかりの出演による歌謡公演 入場者数 346名 ②ザ・チェンバープラス～N響金管奏者たち～ 開催日：9月1日（火）午後6時30分～8時30分 会場 エコーセンター2000 エコーホール 内容 NHK交響楽団の金管奏者、ゲストの木管奏者による網走公演 入場者数 251名 ③しげちゃん一座あばしり公演 開催日 9月17日（木）午後6時30分～8時00分 会場 エコーセンター2000 エコーホール 内容 女優室井滋と絵本作家長谷川義史氏による絵本朗読とライブショー 入場者数 354名 ④トリオ・YaS—375 サクソフォンコンサート 開催日 10月8日（木）午後6時30分～8時 会場 エコーセンター2000 エコーホール 内容 サックスとピアノの三重奏 入場者数 85名 ⑤土田英順チェロコンサート 開催日 10月24日（土）午後11時30分～12時30分 会場 エコーセンター2000 アトリウムロビー 内容 チェロとピアノの二重奏（東日本大震災チャリティコンサート） 入場者 75名
成果	市民の企画提案を取り入れながら、様々な分野の芸術文化の鑑賞機会が提供された。
課題	補助事業を含め、芸術鑑賞事業の需要と供給の全体像を把握するとともに、公演事業を企画運営できる市民組織の育成について引き続き検討が必要である。
今後の方向性	企画から運営までを含め市民と行政が連携して実施する手法により、集客・収支率の向上を目指しながら引き続き実施する。また、広域の連携を図りながら効率的な公演が図られるよう努める。

項目	ふるさとアーティストフェスティバル（拡充）
目的	エコーセンター2000 を中心として、網走にゆかりのあるアーティストに発表の場を提供し、様々なジャンルのアーティストの活動拠点づくり及び環境整備を図るとともに、地域における新たな芸術文化活動の創出を目指す。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとアーティストフェスティバルVol.2 LIVE in ABASHRI 2015 日時 9月29日（火）～10月4日（日） 会場 エコーセンター2000 エコーホール・アトリウムロビー・展示室 出演 14組25名 市内文化団体10組 入場者 5,052名（ホール1,026名、アトリウムロビー590名、展示室3,436名） ・フェスティバル連携事業 <ul style="list-style-type: none"> ①アトリウムロビーコンサート（再掲） 日時 10月10日（土） 午前11時30分～12時30分 会場 エコーセンター2000 アトリウムロビー 内容 ふるさとアーティストと市民団体による合同演奏 入場者 約180名 ②市内吹奏楽団体との合同コンサート 日時 12月26日（土） 午後5時～7時 会場 エコーセンター2000 エコーホール 内容 ふるさとアーティストと市内吹奏楽局による合同演奏 入場者 約200名 ③ふるさとアーティスト展 日時 12月23日（水祝）～1月11日（月祝） 会場 エコーセンター2000 展示室 内容 アーティストのプロフィールや活動情報などをパネルで展示 入場者 4,816名
成果	網走ゆかりのアーティストにふるさとでの出演機会を創出し、市民は交流しながら鑑賞機会を持つことが出来た。出演者は全国で活躍しながらふるさと網走をPRし、市民も交流により出演者を応援 するなど、様々なジャンルの優れた芸術文化の活動拠点となるような環境づくりの一つとなった。
課題	日程や市内行事との連携、ふるさとアーティストの地域での活動など、市民や出演者の意見等を取り入れながら長期的視野で実施方法を研究する必要がある。
今後の方向性	継続する。（本格開催後は隔年開催のため次回公演は29年度） 今後もより情報を収集し、出演機会と鑑賞機会を提供し芸術文化環境を整えていく。

（3）美術館の充実

①所蔵作品の展示

項目	郷土作家「居串佳一」をはじめとする収蔵作品の展示（常設展）
目的	居串佳一などの郷土作家や地縁作家、オホーツクに主題を持つ作家などの作品を収集・保存・調査・研究し、地域の芸術文化を次世代に引き継いでいく。
取組実績	常設展 開館日数 294日 観覧者数 高校生以上 9,180名 中学生以下 1,898名 合計 11,078名
成果	年間を通じて居串佳一をはじめとした郷土出身作家を公開できた。
課題	作品の展示替えをしても同作家の場合は変化がわかりづらい。
今後の方向性	今後も郷土作家を中心とした収蔵作品を継続し公開していく。

項 目	美術館所蔵作品展・所蔵長谷川誠展の開催（企画展）
目 的	美術館所蔵作家作品を紹介する。
取組実績	・会 期 4月4日～4月30日（22日間）111名4名 8月19日～3月30日（11日間）170名6名 ・観覧者数 高校生以上 281名 小中学生以下 10名 合計 291名
成 果	所蔵作家作品を広く紹介することができた。
課 題	長谷川氏の近作と併せて展示ができるとよかった。
今後の方向性	今後もテーマを変えて所蔵作品の紹介をする。

②企画展の開催

項 目	『平成の生まれ出づる悩み展』の開催（ミニ企画1）
目 的	有島記念館で開催されている『平成の生まれ出づる悩み展』の巡回展を開催し、現代の若者の制作に対する悩みと作品を紹介する。
取組実績	・会 期 6月27日～7月19日（20日間） ・観覧者数 高校生以上 347名 小中学生以下 133名 合計 480名 ・関連事業 ギャラリートーク 日時 7月4日 2名参加
成 果	他の企画展と同時開催で観覧者が増加した。
課 題	観覧者数は多かったが、関連事業の参加者は少なかった。
今後の方向性	ミニ企画は新たな鑑賞者の客層を広げているため規模等を考慮しながら継続していきたい。

項 目	ALONG THE RIVER『中川裕孝展』の開催（ミニ企画2）
目 的	デニム生地で風景を表現するテキスタイル作家中川裕孝を紹介する。
取組実績	・会 期 6月27日～7月19日（20日間） ・観覧者数 高校生以上 347名 小中学生以下 133名 合計 480名 ・関連事業 ギャラリートーク 日時 6月27日 6名参加
成 果	他の企画展と同時開催で観覧者が増加した。
課 題	観覧者数は多かったが、関連事業の参加者は少なかった。
今後の方向性	ミニ企画は新たな鑑賞者の客層を広げているため規模等を考慮しながら継続していきたい。

項 目	『河田卓 彫刻展』の開催（ミニ企画3）
目 的	市内在住で彫刻を制作し発表する彫刻家・河田卓を紹介する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・会 期 11月14日～12月13日（26日間） ・観覧者数 高校生以上331名 小中学生以下23名 合計354名 ・関連事業 ギャラリートーク 日時11月14日 23名参加
成 果	市内作家であるため多くの観覧者があった。
課 題	立体作品の作品輸送は、絵画等に比べると困難であるが、数年に一度でも立体の企画展を開催することも大切である。
今後の方向性	ミニ企画は新たな鑑賞者の客層を広げているため規模等を考慮しながら継続していきたい。

項 目	ネェダンナサン『阿部典英展』の開催
目 的	変革する立体作品と、その立体を作り出す作家の素描を展示することで、制作へのプロセスと作家の想いを紹介する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・会 期 9月5日～11月3日（52日間） ・観覧者数 高校生以上376名 小中学生以下39名 合計415名 ・ギャラリートーク 9月5日 26名
成 果	大きな立体作品と作家の素描に埋め尽くされた展示室は鑑賞者を満足させていた。
課 題	本展の輸送自体は作家懇意の業者のため予算内で開催できたが、大きな立体作品の輸送には経費がかかる。
今後の方向性	立体作品であるが、会場全体のインスタレーションでもあり、現代アートの一面を今後も紹介してゆく。

項 目	網走信用金庫90周年記念『ピカソ版画展』の開催
目 的	網走信用金庫90周年記念の記念事業の一環として一般財団法人荒井記念美術館の所蔵の「ピカソ版画」を紹介する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・会 期 2月11日～3月27日（40日間） ・観覧者数 高校生以上6,772名 小中学生以下1,182名 合計7,954名 ・作品解説会 2月11日 165名
成 果	多くの来館者が訪れ好評であった。
課 題	著名作家の展覧会では、観覧者が多くなり、展示室の監視体制が十分に整わない。
今後の方向性	このような機会があれば今後もすぐれた作品を広く紹介したい。

③移動展の開催

項 目	『楽しい子どもの美術展』の開催
目 的	国内外の児童・生徒の作品を展示し、紹介する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・会 期 5月2日～5月24日(20日間) ・観覧者数 高校生以上 178名 小中学生以下 162名 合計 340名 ・ワークショップ「大画面に絵を描こう」 5月5日 指導 当館学芸員(参加13名)
成 果	多くの観覧者が来館した。また、斜里町や遠軽町の巡回展も開催された。
課 題	子どもの作品だけでなく、同時開催でプラスアルファの企画が必要である。
今後の方向性	他地域の同世代の作品鑑賞機会が必要であり、今後も継続する。

項 目	北海道書道展の開催
目 的	第56回北海道書道展 網走移動展を開催し、紹介する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・会 期 7月25日～8月16日(20日間) ・観覧者数 高校生以上 262名 小中学生以下 30名 合計 292名 ・解説会・揮毫会 7月26日 講師 本間太州 氏(参加35名)
成 果	観覧者数は横ばいであるが、解説会・揮毫会の開催により、観覧者の興味関心を引くことができた。
課 題	観覧者数の多くは一般であり、児童生徒学生は少ない。授業や書道塾の習字から表現の書への興味関心を作ることが課題である。
今後の方向性	道内で、北海道書道展の移動展は函館と網走の2箇所であり、継続して開催していく。

項 目	第62回写真道展・第33回学生写真道展の開催
目 的	北海道内の写真公募展の『第62回写真道展・第33回学生写真道展 網走移動展』を開催し、鑑賞機会を提供する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・会 期 12月19日～1月17日(20日間) ・観覧者数 高校生以上 123名 小中学生以下 19名 合計 142名 ・作品解説会 12月21日 講師 佐々木砂宗氏(参加3名)
成 果	前年度と比較して鑑賞者がおよそ半分である。
課 題	市内から写真道展に出品されていないせいに関心が薄い。
今後の方向性	写真の普及のため、移動展を継続していく。

④講座・教室の開催

項目	出張美術館の開催																																													
目的	学校等に出張し作品を展示することで、児童生徒や教員に対し美術に対する興味関心を高めてもらう。																																													
取組実績	<table border="0"> <tr> <td>網走中央小</td> <td>9月1日～9月11日(11日)</td> <td>鑑賞者 284名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>網走南小</td> <td>9月15日～9月18日(4日)</td> <td>鑑賞者 374名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>網走呼人小・中</td> <td>9月7日～9月9日(3日)</td> <td>鑑賞者 71名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>東京農大収穫祭</td> <td>10月11日～10月12日(2日)</td> <td>来場者 1024名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>網走白鳥台小</td> <td>10月13日～10月16日(4日)</td> <td>鑑賞者 63名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>網走第四中</td> <td>10月20日～10月30日(14日)</td> <td>鑑賞者 65名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>網走小</td> <td>11月4日～11月17日(14日)</td> <td>鑑賞者 333名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>網走東小</td> <td>11月18日～11月25日(8日)</td> <td>鑑賞者 66名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>網走潮見小</td> <td>11月26日～12月4日(9日)</td> <td>鑑賞者 544名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>網走第三中</td> <td>12月8日～12月22日(15日)</td> <td>鑑賞者 480名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>網走第二中</td> <td>1月22日～2月18日(28日)</td> <td>鑑賞者 225名</td> <td>合計 3529名</td> </tr> </table>	網走中央小	9月1日～9月11日(11日)	鑑賞者 284名		網走南小	9月15日～9月18日(4日)	鑑賞者 374名		網走呼人小・中	9月7日～9月9日(3日)	鑑賞者 71名		東京農大収穫祭	10月11日～10月12日(2日)	来場者 1024名		網走白鳥台小	10月13日～10月16日(4日)	鑑賞者 63名		網走第四中	10月20日～10月30日(14日)	鑑賞者 65名		網走小	11月4日～11月17日(14日)	鑑賞者 333名		網走東小	11月18日～11月25日(8日)	鑑賞者 66名		網走潮見小	11月26日～12月4日(9日)	鑑賞者 544名		網走第三中	12月8日～12月22日(15日)	鑑賞者 480名		網走第二中	1月22日～2月18日(28日)	鑑賞者 225名	合計 3529名	
網走中央小	9月1日～9月11日(11日)	鑑賞者 284名																																												
網走南小	9月15日～9月18日(4日)	鑑賞者 374名																																												
網走呼人小・中	9月7日～9月9日(3日)	鑑賞者 71名																																												
東京農大収穫祭	10月11日～10月12日(2日)	来場者 1024名																																												
網走白鳥台小	10月13日～10月16日(4日)	鑑賞者 63名																																												
網走第四中	10月20日～10月30日(14日)	鑑賞者 65名																																												
網走小	11月4日～11月17日(14日)	鑑賞者 333名																																												
網走東小	11月18日～11月25日(8日)	鑑賞者 66名																																												
網走潮見小	11月26日～12月4日(9日)	鑑賞者 544名																																												
網走第三中	12月8日～12月22日(15日)	鑑賞者 480名																																												
網走第二中	1月22日～2月18日(28日)	鑑賞者 225名	合計 3529名																																											
成果	出張希望校は昨年より増え、多くの児童生徒等に美術鑑賞の機会を提供した。																																													
課題	より多くの学校に対して、開催状況を知らせ、興味を持ってもらう。																																													
今後の方向性	今後も多くの学校で継続していく。																																													

項目	研修等の受け入れ																												
目的	職場体験や校外学習の受入																												
取組実績	<table border="0"> <tr> <td>高校生オープン講座</td> <td>通年</td> <td>10名</td> </tr> <tr> <td>一般市民オープン講座</td> <td>通年</td> <td>8名</td> </tr> <tr> <td>クリオネ学級</td> <td>2回</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td>鑑賞学習 網走南小学校</td> <td>5月12日</td> <td>80名</td> </tr> <tr> <td>鑑賞学習 女満別高校</td> <td>5月15日</td> <td>20名</td> </tr> <tr> <td>鑑賞学習 東京農大</td> <td>7月1日</td> <td>18名</td> </tr> <tr> <td>鑑賞学習 網走中央小</td> <td>7月2日</td> <td>48名</td> </tr> <tr> <td>職場体験学習 第二中学校</td> <td>8月25日</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>鑑賞学習 網走西小</td> <td>10月27日</td> <td>31名</td> </tr> </table>	高校生オープン講座	通年	10名	一般市民オープン講座	通年	8名	クリオネ学級	2回	7名	鑑賞学習 網走南小学校	5月12日	80名	鑑賞学習 女満別高校	5月15日	20名	鑑賞学習 東京農大	7月1日	18名	鑑賞学習 網走中央小	7月2日	48名	職場体験学習 第二中学校	8月25日	2名	鑑賞学習 網走西小	10月27日	31名	
高校生オープン講座	通年	10名																											
一般市民オープン講座	通年	8名																											
クリオネ学級	2回	7名																											
鑑賞学習 網走南小学校	5月12日	80名																											
鑑賞学習 女満別高校	5月15日	20名																											
鑑賞学習 東京農大	7月1日	18名																											
鑑賞学習 網走中央小	7月2日	48名																											
職場体験学習 第二中学校	8月25日	2名																											
鑑賞学習 網走西小	10月27日	31名																											
成果	多くの児童・生徒・学生を受入れ、学習機会を提供した。																												
課題	特になし。																												
今後の方向性	鑑賞学習や職場見学など、積極的に受け入れていく。																												

項目	夏休み図工講座・中高生のデッサン講座の開催							
目的	夏休み期間に実技の向上を図り、美術館に興味を持ってもらう。							
取組実績	<table border="0"> <tr> <td>小学生図画講座「流木に絵を描こう」</td> <td>8月4日</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>中高生デッサン講座「静物デッサンを描こう」</td> <td>8月5日</td> <td>0名</td> </tr> </table>	小学生図画講座「流木に絵を描こう」	8月4日	5名	中高生デッサン講座「静物デッサンを描こう」	8月5日	0名	
小学生図画講座「流木に絵を描こう」	8月4日	5名						
中高生デッサン講座「静物デッサンを描こう」	8月5日	0名						
成果	作品を完成させることができた。							
課題	宣伝不足からか、中高生の参加者がなかった。							
今後の方向性	特に、中高生に関しては基本・基礎が大切であるため継続していきたい。							

項目	美術館実技講座「油絵入門」講座の開催
目的	初心者の実技講座を開催し、新たに美術に対し興味関心を持ってもらう。
取組実績	12月5日、12日、19日、26日 参加者 25名（うち中学生10名）
成果	初心者でも、完成までのプロセスを体験することが出来た。また、中学生の参加もあった。
課題	講座終了後、継続して創作活動が出来るよう支援する。
今後の方向性	市民の創作活動を促すために継続していきたい。

項目	オホーツク・アートセミナー（美術部門）への支援
目的	オホーツク・アートセミナーの企画・運営に協力し、美術に関心を高めてもらう。
取組実績	マンガ講座 1月23日24日 参加者 10名 描画講座 2月20日21日 参加者 19名
成果	マンガ講座は2ページの漫画を作ることができた。描画講座は遠方より受講する生徒が来た。
課題	講座終了後、継続して創作活動が出来るよう支援する。
今後の方向性	市民の創作活動を促すために継続していきたい。

⑤美術館の改修

項目	美術館壁面改修工事
目的	美術館7条側壁面のタイル剥離等による落下を防止する工事。
取組実績	契約 平成27年6月25日（同日着手） 完成 平成27年8月17日（同日検査）
成果	改修工事後は壁面よりタイルの落下が防止された。
課題	開館後44年を経過しているため、改修・修理等が今後も予想される。
今後の方向性	現在の建物の状況を把握し、今後の改修等について検討することが必要である。

（4）博物館の充実

項目	特別企画展「網走の絵馬展」の開催（新規）
目的	郷土の歴史を学び、親しむ機会を提供する。
取組実績	・「網走の絵馬展」の開催 3月1日～3月31日 入場者727名
成果	網走市指定文化財の絵馬の公開により、郷土の幕末～明治期の姿を学べる場を提供できた。
課題	小中学校の児童・生徒の見学機会提供のため、学校との連携強化を進める必要がある。
今後の方向性	市民が郷土の歴史を見つめ直し、親しみをもつ機会として、テーマを替えながら継続的に開催していく。

項目	特別企画展「網走のハチ展」の開催（新規）
目的	郷土の自然を学び、親しむ機会を提供する。
取組実績	・「網走のハチ展」の開催 8月1日～9月30日 入場者1,508名
成果	網走に生息するハチの展示解説を通じて、身近な自然を学ぶ場の提供が図られた。
課題	特別企画展と関連した観察会の開催など、誘客機会の充実が必要である。
今後の方向性	市民や観光客等が網走の自然に触れる機会として、テーマを替えながら開催していく。

項目	剥製標本作製、遺跡出土資料の複製品作製（継続）
目的	網走の歴史・自然資料を収集・保存し、郷土を身近なものとして親しんでもらう。
取組実績	・剥製標本作製 ゴマフアザラシの遊泳型の剥製 1点（モヨロ貝塚館展示） ・モヨロ貝塚出土資料の複製品作製 サメ骨製のクマ座像 1点（市立函館博物館所蔵、複製品はモヨロ貝塚館展示）
成果	郷土資料の収集等により、市民が郷土の歴史と自然への理解を深める機会となった。
課題	収蔵資料の有効的な活用のため、限られたスペースでの展示方法の研究が課題。
今後の方向性	郷土の自然資料の収集・整理及びモヨロ貝塚出土資料の保存・修理等をすすめる。

5. 文化財

（1）展示施設の充実

項目	モヨロ貝塚PR事業（拡充）
目的	モヨロ貝塚PRにより、モヨロ文化を街のシンボリックイメージとして定着させる。
取組実績	・女満別空港～網走間のバス車体にモヨロ貝塚の案内看板を掲出（ラッピングバス） ・女満別空港でのモヨロ貝塚の電照案内看板の掲示 ・市内道路等10箇所での誘導案内看板の設置及び市内外8箇所での出土品等の展示 ・モヨロ貝塚の広報活動の充実（新聞、雑誌、HP等）
成果	ラッピングバスの運行により、多くの来訪者にモヨロ貝塚を広くアピールできた。
課題	各種の広報活動の継続的な実施と観光関係機関等との一層の連携が必要である。
今後の方向性	今後とも出土資料や案内看板の活用を図り、モヨロ文化の広報に努めていく。

項目	モヨロ文化講座開催事業（継続）
目的	モヨロ貝塚を学ぶ機会の充実を図り、モヨロ文化の一層の周知と理解に努める。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> モヨロ文化市民講座の開催 日時等：平成28年1月23日（土）14：00～15：30 参加者145名 テーマ：モヨロ人の祈りの世界とくらし～オホーツク文化集団の動物利用と儀礼 講師：佐藤 孝雄氏（慶応義塾大学）
成果	モヨロ人の祈りの世界を具体的に学び、モヨロ文化の理解が深められた。
課題	最新の研究成果を踏まえたモヨロ文化の理解が深められる講師の選定が重要。
今後の方向性	毎年テーマを変えながら継続的に開催し、モヨロ文化の一層の周知に努めていく。

6. スポーツ

（1）スポーツ施設の整備、利用促進

項目	陸上競技場の整備（継続）
目的	スポーツへの参加機会の拡充、効果的な利用促進・活用を図る。
取組実績	トラックライン・マーキング補修、インフィールド芝生改修
成果	施設改修を行なうことにより、利用者の利便性を確保し、利用促進及び活用につなげる。
課題	経年劣化等によるトラック・フィールドの施設改修、必備用具の更新
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていききたい。

項目	野球場、スポーツ・トレーニングフィールド等のグラウンド整備（継続）
目的	スポーツへの参加機会の拡充、効果的な利用促進・活用を図る。
取組実績	ラグビー場芝生グラウンド改修（芝生張替）、テニスコート人工芝張替補修、テニスコート照明灯殺虫器取替
成果	競技環境を整えることや施設用備品を更新することにより、利用者の利便性の確保や競技環境を整え、利用促進及び活用につなげる。
課題	施設の老朽化が進み、夜間照明設備のあるテニスコート人工芝全面張替え等大規模な改修について検討しなければならない。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていききたい。

項 目	ボート競技場の整備（継続）
目 的	スポーツへの参加機会の拡充、効果的な利用促進・活用を図る。
取組実績	コースの設置
成 果	施設のメンテナンスを行なうことにより、利用者の安全を確保し、利用促進及び活用につなげる。
課 題	老朽化が進み、栈橋の改修等大規模な改修について検討しなければならない。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていききたい。

項 目	桂町球技場の整備（継続）
目 的	スポーツへの参加機会の拡充、効果的な利用促進・活用を図る。
取組実績	芝生の維持管理
成 果	芝生グラウンドを適切に維持管理することにより競技環境を整え、利用促進及び活用につなげる。
課 題	利用者の少ない時間帯の利用促進
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていききたい。

項 目	レークビュースキー場の整備（継続）
目 的	スポーツへの参加機会の拡充、効果的な利用促進・活用を図る。
取組実績	第2リフト制御装置改修、山麓ロッジ屋根改修、競技用タイム計測装置購入
成 果	施設のメンテナンスを行なうことや施設用備品を更新することにより、利用者の安全性や利便性を確保し、利用促進及び活用につなげる。
課 題	施設の老朽化が進み、第2リフト制御装置の更新等大規模な改修について検討しなければならない。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていききたい。

項 目	西地域プールの整備（継続）
目 的	スポーツへの参加機会の拡充、効果的な利用促進・活用を図る。
取組実績	施設の維持管理
成 果	施設のメンテナンスを行うことなどにより、利用者の利便性を確保し、利用促進及び活用につなげる。
課 題	老朽化が進む施設整備の延命対策及び更新等の検討
今後の方向性	施設の状況、利用者からの要望等を踏まえ整備を行っていききたい。

項 目	市民健康プールオープン記念事業（新規）
目 的	新プール開館記念式を開催することにより、新プール完成について市民へPRし、利用者の増加を図る。
取組実績	開館記念式講師招聘：「寺川 綾」氏（2012 ロンドンオリンピック銅メダリスト） 開館記念式典：平成 27 年 4 月 29 日開催 来賓 : 63 名 水泳教室参加児童：25 名
成 果	開館記念式の開催により、新プール利用環境を周知することができ、施設の利用促進及び活用につなげる。
課 題	市民に広く水泳や健康増進を目的に利用してもらうための施設運営及び利用促進。
今後の方向性	幅広い年齢層の市民が健康づくりのため施設を利用できるよう、安全安心な施設管理に努めるとともに、水泳教室や健康増進講座を運営するなど利用促進を図っていく。

（２）スポーツ活動の促進

項 目	スポーツ教室等の開催（継続）																									
目 的	市民が気軽に楽しめるスポーツ教室等の実施																									
取組実績	<table border="0"> <tr> <td>バドミントン教室(夜の部)</td> <td>6名</td> <td>6日間</td> <td>延</td> <td>33名</td> </tr> <tr> <td>硬式テニス教室(夜の部)</td> <td>8名</td> <td>6日間</td> <td>延</td> <td>36名</td> </tr> <tr> <td>スキー教室(夜の部)</td> <td>31名</td> <td>4日間</td> <td>延</td> <td>118名</td> </tr> <tr> <td>スケート教室(冬休み)</td> <td>27名</td> <td>4日間</td> <td>延</td> <td>99名</td> </tr> <tr> <td>スノーボード教室(夜の部)</td> <td>25名</td> <td>4日間</td> <td>延</td> <td>77名</td> </tr> </table>	バドミントン教室(夜の部)	6名	6日間	延	33名	硬式テニス教室(夜の部)	8名	6日間	延	36名	スキー教室(夜の部)	31名	4日間	延	118名	スケート教室(冬休み)	27名	4日間	延	99名	スノーボード教室(夜の部)	25名	4日間	延	77名
バドミントン教室(夜の部)	6名	6日間	延	33名																						
硬式テニス教室(夜の部)	8名	6日間	延	36名																						
スキー教室(夜の部)	31名	4日間	延	118名																						
スケート教室(冬休み)	27名	4日間	延	99名																						
スノーボード教室(夜の部)	25名	4日間	延	77名																						
成 果	各教室とも基本技術の習得と競技の楽しさを体験でき、教室終了後に既存クラブの紹介を行うことにより競技の継続を呼びかけた。																									
課 題	参加者の少ない種目のあり方が課題となっている。																									
今後の方向性	種目・対象・日程を参加しやすい環境にして参加者増に努めたい。また、参加の少ない種目については今後の在り方についても検討したい。更に、独自で開催できる協会には協会主催へ移行し、それに伴う支援の方法を検討したい。																									

項 目	いきいき健康体力づくり教室（継続）
目 的	市民が気軽に楽しめるスポーツ教室等の実施
取組実績	参加者数 55名 12回 延548名
成 果	市内 60 歳以上の方を対象に毎月 1 回のペースでさまざまな種目を実施し、毎年参加者から高評を得ている。
課 題	大勢の受講者が安全かつ理解しやすく一斉にできる種目が少ないことから、毎年ほぼ同じ内容になっているため、参加者を飽きさせない工夫が必要である。
今後の方向性	高齢者スポーツ講習会などに参加し新種目の模索、運営のノウハウを学びたい。

項目	健康体力診断事業（継続）
目的	年齢・体力に応じた継続的なスポーツ活動の推進
取組実績	体力測定の利用者数 年間延 27 名
成果	コンピューターシステムを活用し、個々にあったトレーニングメニューの提供を行うことができた。
課題	健康である方が対象となるため、健康状態に問題のある方への指導が課題となっている。
今後の方向性	健康状態に問題のある方への指導は、他課と連携しながら取り組んで行けるよう努めたい。

項目	オホーツク歩くスキーの集い（継続）
目的	市民が気軽に楽しめるスポーツ行事の実施
取組実績	参加者数 47 名（参加申込 92 名）
成果	道立オホーツク公園「てんとらんど」にて上記イベントを開催し、海外留学生のゲストを招くなど国際交流にも寄与するとともに、市民に対して冬季スポーツの普及を図ることができた。
課題	チラシ配布等によりPRを行なっているが、参加者の増加につなげない。
今後の方向性	運動不足になりがちな冬季に行えるスポーツの普及を図るため、今後も継続したい。

項目	こどもスポーツチャレンジ事業（継続）
目的	少年期からスポーツに親しむことにより、体力の向上・礼儀・協調性を身につける。
取組実績	参加者数 小学生 20 名 保護者 2 名 延べ 13 回 148 名
成果	スポーツ推進委員の協力で参加者に満足いただける事業となった。子どもがいきいきとしており、運動する機会の少ない子どもたちには、継続的に運動するきっかけとなる事業となっている。
課題	今後より良い事業にするための情報収集・研修が必要と思われる。
今後の方向性	スポーツ推進委員と新たな種目の導入などの検討を行い、継続して参加してもらえよう魅力ある事業としたい。

項目	夢の教室開催事業（継続）
目的	「夢先生」に自らの体験をもとに「夢をもつことの大切さ」、「仲間と協力することの大切さ」など講演と実技を通じて子どもたちに伝える。
取組実績	4 校 6 コマ 193 名受講
成果	オリンピック出場選手等のこれまでの経緯、体験談等を聞き、子どもたちが自分の夢について考える時間を得ることができた。
課題	子どもたちの関心を高めるため、著名な講師派遣依頼を行っていく。
今後の方向性	これまでは、実施可能な学校を選定して実施していたが、市内小学校全校実施を目指していきたい。

(3) 活動組織・指導者の育成

項目	活動組織や指導者の育成（継続）
目的	体育協会や各種スポーツ団体との連携協力を深め、必要な援助を行うとともに、次代を担う子供たちへの育成援助を行う。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・地域やスポーツ団体との連携（継続） 体育協会及び加盟団体との連携協力 ・スポーツ指導者養成支援（継続） ・スポーツ少年団の育成（継続） 登録団体数 22 団体 団員数 602 名 指導者数 136 名
成果	各団体が積極的にスポーツに取り組むことにより、各種目の競技力向上、団体の充実が図られるとともに、スポーツ課の事業への協力もいただき、より良い事業展開が図られた。
課題	多くの団体が指導者の不足・高齢化の問題がある。
今後の方向性	指導者不足・高齢化問題は中々打開策がなく、団体及び指導者に担当課としてどのような支援ができるか検討したい。

(4) スポーツ合宿や大会誘致

項目	スポーツ合宿受入対策事業（継続）																				
目的	国内トップアスリートをはじめ多くの競技者が環境の良い当市で合宿を行なうことにより、地域のスポーツ振興と活性化を図る。																				
取組実績	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">ラグビー</td> <td style="width: 15%;">13 団体</td> <td style="width: 15%;">816 名</td> <td style="width: 10%;">延</td> <td style="width: 45%;">8,805 名</td> </tr> <tr> <td>陸上競技</td> <td>30 団体</td> <td>699 名</td> <td>延</td> <td>7,198 名</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10 団体</td> <td>238 名</td> <td>延</td> <td>1,546 名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>54 団体</td> <td>1,753 名</td> <td>延</td> <td>17,549 名</td> </tr> </table>	ラグビー	13 団体	816 名	延	8,805 名	陸上競技	30 団体	699 名	延	7,198 名	その他	10 団体	238 名	延	1,546 名	計	54 団体	1,753 名	延	17,549 名
ラグビー	13 団体	816 名	延	8,805 名																	
陸上競技	30 団体	699 名	延	7,198 名																	
その他	10 団体	238 名	延	1,546 名																	
計	54 団体	1,753 名	延	17,549 名																	
成果	<p>ラグビー・陸上競技長距離を中心に合宿が行われた。ラグビーについては、トップチームによる「網走ラグビーフェスティバル」を開催し多くの観客が訪れ、その模様はCS放送で放送され、当市がラグビー合宿のメッカであることを広くPRできた。</p> <p>実人員は昨年とほぼ同数の実績となり、ラグビー、陸上競技とも当市で合宿を実施したチームが好成績を収めている。</p> <p>多くのアスリートが網走合宿を行うことにより、スポーツ振興と地域の活性化が図られた。</p>																				
課題	<p>更なる環境整備(陸上競技のクロスカントリーコース等)が今後、スポーツ合宿事業を推進していく上で必要である。</p> <p>毎年受け入れ人数に多少の増減があり、安定した来網者の確保に努めたい。</p>																				
今後の方向性	<p>評価の高い施設を参考に、上記施設の検討を行う。</p> <p>より多くのスポーツ合宿を網走市で行ってもらおうための誘致活動に努める。</p>																				

項 目	全国・全道大会の開催支援（新規・継続）
目 的	網走市において全国・全道大会を開催することにより、各種目の競技力向上と普及、更には地域の活性化が期待される。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・国体ボート競技北海道大会（継続） 選手 99 名 監督・役員 103 名 ・北海道知事杯第 15 回北海道軟式野球選手権大会（新規） 参加 251 名 ・北海道ラージホール卓球大会（新規） 参加 100 名 ・ホクレンディスタンス網走大会（継続） 出場者 473 名 観客数約 500 名
成 果	各競技団体が主体となり全道大会が開催され、多くの競技者・関係者が訪れた。レベルの高い大会が行われ、競技力と協会の運営能力の向上が図られるとともに、地域の活性化が図られた。
課 題	補助対象とする大会の整理、検討が課題となっている。
今後の方向性	地域の競技力向上と活性化が期待できる競技大会については、今後も支援をしていきたい。

7. 国際化対応

（1）国際化に対応した教育や人材の育成

項 目	英会話指導員の配置（継続）
目 的	幼少期（保育園・幼稚園・小学校）から生の英会話にふれることで、英語への関心を高め、国際化に対応できる人材を育成する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園・幼稚園・小学校での英会話指導 小学校： 9校 642時間10分 幼稚園： 6園 76時間30分 一般・サークル支援 38時間00分 合計 756時間40分
成 果	英会話指導は、現場教員と意見交換を行い幼児から小学6年生までの段階的な指導要領を作成したことにより、発達段階に応じた系統的な指導が可能になった。 (平成 26 年度：英会話事業 816 時間)
課 題	各小学校、幼稚園、保育園での外国語活動への対応について、調整が必要である。
今後の方向性	子どもたちの英語力を高めるために有効な事業であり、引き続き取り組んでいく。

項 目	国際理解体験事業（継続）
目 的	幼少期（保育園・幼稚園・小学校）から生の外国語に触れたり、外国の伝統的な行事を体験することにより、国際感覚をもった人材を育成する。また、外国文化にふれることにより、世界に目を向け国際化に対応できる人材を育成する。
取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・世界を旅しよう！～網走で外国を体験～ 6月27日（土） 午後1時30分～3時30分 小学生 32名、ボランティア 20名 エコーセンター2000 大会議室 在住外国人が母国紹介ブースを開設し、参加者は外国人とコミュニケーションを図りながら理解を深める。クイズやゲームなど遊びながら学習をより深める ・ハロウィーンパーティー 10月16日（金） 午後6時30分～8時30分 小学生 178名、ボランティア 71名 仮装、お化け屋敷、各種ゲーム、キャンディ投げなど ・夏休み教室（再掲） 「おとなりの国 韓国の料理をじゃがいもで作って食べよう！」 7月27日（月）午前10時～12時 小学1～6年生 18名
成 果	<p>外国の伝統的な文化・風習のほか、世界のさまざまな国を体験・理解する学習機会として定着している。今年度は新たに「世界を旅しよう」を企画し、農大生や管内ALT・市民ボランティアの協力のもと、遊びを通じた国際理解体験の機会を創出できた。</p> <p>また、夏休み教室において在住の外国出身市民の協力により、外国の食文化について、子どもたちが理解を深めることができた。</p> <p style="text-align: center;">（平成26年度：イースター 28名、ハロウィーン 110名）</p>
課 題	参加希望者が多く、ボランティアの確保を含め内容や手法の工夫が必要である。
今後の方向性	子どもたちの国際感覚を育成するために有効な事業であり、参加希望も多く寄せられており、引き続き取り組んでいく。

Ⅲ 教育委員会の活動状況

1. 教育委員の就退任状況

委員長：新谷 哲也（平成14年12月27日就任、委員長 平成19年6月29日就任）
 委員：富永 雄一（平成24年10月 1日就任）
 杉本 匡規（平成25年12月28日就任）
 中山 真弓（平成26年 4月 1日就任）
 教育長：木目澤 一三（平成17年 4月 1日就任）

2. 教育委員会議の開催状況

網走市教育委員会における会議(教育委員会議)は、毎月1回の定例会のほか、必要がある場合には、臨時会を開催し、教育委員会の決裁を要する案件(議案)について、審議を行うとともに、重要事項について事務局から報告等を受けている。

また、案件等について事前に意見交換や協議をする必要がある場合には、教育委員会協議会を開催している。

平成26年度の教育委員会議等の開催状況は次のとおりであり、平成22年1月以降の教育委員会議の開催状況については、市のホームページに掲載をしている。

なお、会議の傍聴者はいなかった。

回	開催日	出席 委員数	案 件	審議 結果
1	平成27年 4月1日	5名	報告第1号 網走市教育委員会職員の任免について 報告第2号 平成27年4月1日付校長・教頭人事について	報告承認 〃
2	平成27年 4月22日	4名	議案第1号 網走市社会教育施設審議会委員の委嘱について 議案第2号 網走市社会教育委員の委嘱について 議案第3号 網走市博物館協議会委員の委嘱について 議案第4号 網走市美術館協議会委員の委嘱について 議案第5号 網走市スポーツ推進審議会委員の委嘱について 議案第6号 平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の「広報あばしり」への公表について 議案第7号 平成27年5月1日付け教頭人事の内申について 議案第8号 網走市教育委員会職員の任免について	原案可決 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
3	平成27年 5月29日	5名	議案第1号 学校給食共同調理場運営委員会委員の委嘱について 議案第2号 網走市奨学生選考委員会の委嘱について 議案第3号 平成27年度一般会計補正予算について 報告第1号 第3次網走市子どもの読書活動推進計画の策定について 報告第2号 平成27年度スポーツ推進計画について 報告第3号 平成26年度卒業式・平成27年度入学式の状況について	原案可決 〃 〃 報告承認 〃 〃

4	平成27年 6月24日	5名	選挙第1号 網走市教育委員会委員長の選挙について 選挙第2号 網走市教育委員会委員長職務代理者の指定について 議案第1号 網走市就学指導審査会委員の委嘱について 議案第2号 網走市学校保健委員会委員の委嘱について 議案第3号 網走市社会教育委員の委嘱について 議案第4号 網走市社会教育施設審議会委員の委嘱について 議案第5号 学校職員の処分内申について 報告第1号 平成27年度社会教育推進計画について	選挙施行 〃 原案可決 〃 〃 〃 〃 〃 報告承認
5	平成27年 7月27日	4名	議案第1号 平成28年度中学校用教科用図書について 議案第2号 平成27年度教育委員の視察研修について 報告第1号 学校職員の処分について	原案可決 〃 報告承認
6	平成27年 8月20日	4名	議案第1号 平成28年度小学校及び中学校教科用図書の採択について 議案第2号 網走市教育委員会事務点検・評価報告書の提出について 議案第3号 網走市博物館協議会委員の委嘱について 議案第4号 網走市スポーツ推進審議会委員の委嘱について 議案第5号 網走市図書館協議会委員の委嘱について 議案第6号 平成27年度補正予算要求について	原案可決 〃 〃 〃 〃 〃
7	平成27年 10月1日	5名	議案第1号 平成27年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について 報告第1号 網走市教育委員会職員の任免について	原案可決 報告承認
8	平成27年 10月26日	5名	議案第1号 国旗及び国歌の適切な指導に関する通知について 議案第2号 平成27年度全国学力・学習状況調査結果の公表(案)について 議案第3号 平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について 議案第4号 平成27年度補正予算要求について	原案可決 〃 〃 〃
9	平成27年 11月25日	5名	議案第1号 学校職員の処分内申について	原案可決
10	平成27年 12月22日	5名	議案第1号 平成28年度教育予算の要求について 報告第1号 学校職員の処分について	原案可決 ※一部継続 報告承認
11	平成27年 12月25日	5名	議案第1号 平成28年度教育予算について	原案可決

12	平成28年 2月10日	5名	議案第1号 平成28年度教育行政推進方針について 議案第2号 平成28年度教育予算について 議案第3号 平成27年度補正予算要求について 議案第4号 網走市女性センター条例を廃止する条例の制定について 議案第5号 網走市女性センター条例施行規則を廃止する規則の制定について 議案第6号 網走市附属機関条例の一部改正について 議案第7号 「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果」の公表について 議案第8号 学校職員の処分内申について	原案可決 〃 〃 〃 〃 〃 〃
13	平成28年 3月12日	5名	議案第1号 平成28年4月1日付校長人事の内申について 議案第2号 平成28年4月1日付教頭人事の内申について 議案第3号 平成27年度補正予算要求について 議案第4号 網走市教育委員会会議規則の一部改正について	原案可決 〃 〃 〃
14	平成28年 3月18日	5名	議案第1号 網走市教育委員会委員の辞職について	原案可決
15	平成28年 3月28日	5名	議案第1号 網走市教育委員会職員の任免について 議案第2号 学校職員の処分の内申について	原案可決 〃
※上記のほか、協議会・話し合い等も開催している。				

3. その他の主な活動

(1) 各種会議への出席等

教育委員は、教育委員会議に出席するほか、適宜、各種会議へ出席するとともに、学校訪問等を行った。その主なものは、次のとおりである。

時 期	区 分	概 要・出席者	
平成27年4月6日～7日	入学式	小学校4校、中学校4校、延べ8名	
平成28年1月10日	成人式	委員長、教育長（場所：エコーセンター）	
平成28年3月15・18・22・23・24日	卒業式	小学校7校、中学校3校、延べ11名	
※上記のほか、教育委員会が主催する各種イベント等にも出席している。			
区 分・会 議 名		出 席 者	時 期
管内 教育委員会協議会	教育長会議	教育長	随時開催（年数回）
	教育長部会（専門委員会を含む）	教育長	随時開催（年数回）
	役員会・総会	委員長他	平成27年 6月 8日
	網走ブロック総会・研修会（斜里町）	委員長他	平成27年 6月 9日
	教育長研修会（紋別市）	教育長	平成27年10月21日
北海道都市 教育委員会 連絡協議会	総会（苫小牧市）	委員長他	平成27年8月25～26日
	教育長会春季総会（根室市）	教育長	平成27年 5月14日
	教育長会秋季総会（旭川市）	教育長	平成27年11月17日
全国都市 教育長協議会	総会（厚木市）	教育長	平成27年5月21～22日
※上記のほか、各種の会議等にも出席している。			

(2) 教育委員への情報提供

教育委員は、会議に出席するほか、事務局から適宜、教育行政上の課題等について情報提供を受け、事務局と意見交換を行っている。

平成27年度に情報提供等をした主なものは、次のとおりである。

<案件以外で説明したもの>

- ・行政事務報告（市議会に係る報告を含む。）
- ・各種会議・行事・イベント等の開催案内
- ・網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略について（H27.8.13）
- ・市の中期的な重点施策の展開（政策検討会）について（H27.11.25）
- ・第1回網走市読書感想文コンクールについて（H27.12.22）

4. 教育委員による自己点検

平成27年度の教育委員会活動に関して教育委員による自己点検を行い、次のとおり取りまとめを行った。

(1) 教育委員会と学校・PTA・各団体との意見交換などにより、互いの理解を深め、情報を共有して教育活動の適切な実施に努めたい。

- ・ 校長会、教頭会、PTA役員などとの交流を通じ、互いに情報交換できる機会が増えてきており、特に、校長会、教頭会との交流は定例となり、垣根の無い情報や意見交換がなされていることを実感しております。教育活動の適切な実施にあたり、地域の教育委員との積極的な情報交換に努め、今後、学校内外で起る諸問題に、迅速に対応出来る様な体制づくりを行ってまいります。

(2) 今後も社会教育活動及び各学校の研究発表、その他の行事などに積極的に参加し、市民ニーズや現状の把握などに努め、教育の質的向上を図りたい。

- ・ 社会教育に係る協議会のみなさんと情報交換する機会を本年は持つことが出来ませんでした。社会教育関係審議会等の会議録から情報を得るなど、お互いの理解と現状の把握に努めました。
- ・ 社会教育委員との交流や各審議会との連携を強め、教育の質的向上に努めたいと思います。
- ・ 各学校のPTA主催による講演会などに参加させていただき、子どもの健康や体力についての知識向上に協力させていただいています。また、入学式・卒業式への参加は、各学校の特色を知る機会として大きな意義を感じています。

(3) 市民、特に児童生徒を対象とした健康・安全の確保、学校行事等の円滑な実施、施設の充実など、今後も事業内容を検討・精選しつつ、維持・継続されるよう努めたい。

- ・ 平成22年度から、社会教育部では「あばしり学」講座が行われています。学校教育部、社会教育部ともに、市民要望等に対応した、意欲ある新たな取り組みが行われており、参加者の高い評価が感じられました。
- ・ 社会教育分野の活動について、市民ニーズに応えられるよう、更なる充実を図ることが望ましいと感じます。
- ・ 学校の儀式的行事等における国旗・国歌の指導については、大きく改善が図られました。引き続き、ピアノ・吹奏楽伴奏で国歌を斉唱することが式典のあり方として望ましいものと考えていることから、学校・PTA・学校評議員等と連携を図り、円滑実施に努めたいと思います。
- ・ 学校や教育委員会施設の状況を把握するため、出来るだけ現場を訪問するよう努力します。

- ・ 各学校の式典やオープンスクールなどに参加することで、学校現場から状況を把握するよう努めます。
- ・ スポーツ施設やスポーツ行事の企画・開催に参画することで、市民や児童生徒の健康体力の向上に協力させていただいています。
- ・ 安全・安心な社会の構築に向け、施設の点検・防災教育など、地域・家庭と連携した取り組みを引き続き行うとともに、地域や保護者、児童生徒・教師に信頼される学校づくりを進めるために、教育委員会として支援できる体制を整備したいと思いをします。

(4) 児童生徒の学力・体力の基礎・基本を確実に身に付けさせるとともに、心の教育の充実に努めたい。

- ・ 児童生徒の学力向上に関しては、諸先生方の努力の結果が出てきたと感じています。更なる向上と、引き上げてきた現状を今後維持していくための取り組みが必要であると思いをします。
- ・ 児童生徒が体験を通じて楽しさを味わいながら学ぶ力を習得する機会が更に増えると良いと思いをします。また、道徳の時間の授業公開も年々拡大してきていますので、今後も更に発展させてほしいと思いをします。
- ・ 小学生の英語授業導入については、ALT以外にも語学に堪能な市民に協力を依頼するなどして英語に慣れ親しむ機会が増えると良いと思いをします。
- ・ 学校給食を通じた食育の推進・地産地消・食物アレルギー対応に、引き続き努めてほしいと思いをします。
- ・ 学力向上を含め、心の教育、食物アレルギーなどについては、家庭との協力が不可欠であり、学校と家庭との結びつきが重要であると感じています。児童生徒、保護者への信用・信頼・安心を互いに築けるよう、学校と家庭の距離感をなくすよう努めてほしいと思いをします。
- ・ 平成24年7月に児童・生徒の学力向上を目指すために、網走市学力向上推進委員会を設置し、同年10月に校長会・教頭会が「学力向上宣言」を教師や市民に発信したところ。毎年行われている全国学力・学習状況調査の結果を、本年より広報あばしり及び市のホームページにおいて公表しました。このことにより、学校・家庭が一体となって児童・生徒の学習への取り組みが改善され、市内児童生徒の更なる学力向上を目指します。
- ・ 引き続き、校内研修や学習環境の充実、幼・保、小中高連携の推進、PTA・地域との連携による基本的な生活習慣の確立や家庭学習の習慣化などの学力向上に向けた様々な取り組みが必要であると思いをします。児童生徒の体力の向上を図るため、現状行われている全国体力・運動能力、運動習慣等調査を公表し、学校・PTA・地域が一体となって、更なる体力向上を推進できる体制の構築を行ってまいります。
- ・ 学校、PTA、地域が一体となって児童生徒の学力・体力の向上を図る取り組みを推進できる体制の構築ができると良いと思いをします。

(5) 学校の実情・地域の特徴に応じた魅力ある学校づくりを更に支援したい。

- ・ 各学校の代表が参加して自校の魅力を披露・発表する機会を設けてもよいのではないかと感じます。それにより、画一的な学校づくりを打破する材料を得られるのではないかと考えます。

(6) 教育委員会の更なる発展のため、意欲的な取り組みをしている他市の教育委員会との交流に取り組みたい。

- ・ 教育委員会は教育行政の基本的な施策の決定と重要な案件の処理を行うことから、今後も積極的に研修会や講演会に参加するなど自己研鑽に努める必要があります。
- ・ 学校生活において、日々起りえる問題に積極的に取り組んでいる他都市の教育委員会や団体から指導及び情報を得て役立てるよう努めたいと思います。
- ・ いじめ対策、学力・体力向上対策などで、成果の上がっている他都市の教育委員会との交流を行うなど、情報収集や委員としての研鑽を図るため、8月に苫小牧市で開催された北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会への参加にあわせ、文部科学省・北海道教育委員会より「土曜授業推進事業の実践」及び、「いじめ未然防止モデルプログラム事業」の指定校として実践研究活動に取り組んでいる登別市立幌別中学校を訪問し、研鑽に努めました。
- ・ 教育委員会からの情報発信を、様々な媒体を使い積極的に行うことが必要だと考えます。そのことによって情報を受け取った他市との交流も生まれることが期待できると思います。

(7) 教育委員、教育委員会事務局が連携を図るとともに、会議の公開・情報発信に努めながら、より一層、網走の教育発展のために努めていきたい。

- ・ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が平成27年4月1日より施行されました。網走市総合教育会議を5月に設置し、会議の運営と策定についての協議を進め、8月に「網走市教育大綱」を策定しました。引き続き、網走市の教育の更なる向上に努めます。
- ・ 毎月開催される教育委員会議の開催日程、会議進行は適切であると感じます。今後も効率よく実施し、必要に応じて協議会などを開催すると良いと思います。引き続き、更に円滑な議事進行となるよう、資料の事前配布や全委員が出席できるよう開催日を調整することが必要であると思います。
- ・ 教育委員会議や協議会では、活発な意見交換を積極的に行うことが必要であると思います。今後も、事務局との情報提供・意見交換を積極的に行うことが必要であると思います。また、開かれた教育委員会を目指し、市民に対する情報発信が必要なことから、会議の傍聴や議事録の閲覧についての周知が必要であると思います。
- ・ 教育委員会からの情報発信について、地域住民や保護者への広報活動を更に広げ継続することが良いと思います。
- ・ これまでに教育委員と市議会文教民生委員会委員、また、市長との意見交換が行われてきたところですが、今後も継続することにより、相互理解と教育行政の更なる進展を図ることができると思います。

IV 外部評価報告書

『網走市教育委員会に対する外部報告書（平成28年8月12日）』

網走市教育委員会外部評価委員

東京農業大学生物産業学部 教職・学術情報課程 准教授 後藤 広太郎
元網走市社会教育委員会 委員 山本 成治

1 総 評

本報告書は、網走市における教育行政の執行にかかる外部評価結果について報告するものであります。まず結論として、平成27年度活動における指摘事項はありません。

以下、特に注目した教育委員会の活動について、「教育事情に関する最近の動向」及び「近年の大学教員養成課程の現状」と照らし合わせた検証報告をいたします。

2 学校教育の推進

グローバル化が加速する中、2009年に実施された「OECD生徒の学習到達度調査（PISA）」の国際比較結果により、『基礎的な知識技能の論理的活用力の向上』が、我が国の学力課題として明確となっております。

さらに、北海道においては、全国体力・運動能力テストの結果から、北海道の児童生徒は全国平均レベル以下という点が継続課題とされております。

「学力向上対策事業」、「東京農業大学学生・網走市立学校連携事業」等について

「学力向上」への継続的な取り組み

「網走市学力向上推進委員会」が機能している点が評価されます。単なる情報交流にとどまらず、教員の指導力向上という目標に向けて実際に活動している点が、特に評価できるポイントです。

「学力向上フォーラム」の取り組み

網走市学力向上委員会とオホーツク管内学校づくり研究会等の共催により、網走市立中央小学校において、「学力向上フォーラム」が開催されました。ICT教育の実践報告を含む、アクティブラーニングに関するワークショップが多数開催され、管内各地から参加した教職員、保護者に近未来の教育実践の提案がなされておりました。

このような効果的なフォーラムを実施できるということは、網走市教育委員会を始めとした教育関係者の意識の高さにあるものと推測されます。

また参加者の多さから、「学力」への意識の高い教職員・一般市民が増加していることが伺えます。東京農業大学教職課程履修者も大勢参加しており、学生の能力向上が報告されております。

これらは該当地域の教育委員会のレベルが高くなければ成立しないものであり、教育委員会が率先して自らの教育力を向上させる姿勢を示していることによるものと考えられます。

「各学校における公開研究会の充実の拡充」

公開研究会を実施することは、各学校の授業指導力の向上を促します。その理由として、他校の教員に自己の授業を披露することで、批判的な検討を受けることが出来、授業改善が可能となることが挙げられます。しかし、実際の管内の公開研究会開催の現状は、全体の約10%となっております（学校単独開催の場合）。

一方網走市においては、市内小中学校15校すべての学校が公開研究会を実施しております（天候不良のため開催中止となった学校を除く）。このことは、オホーツク管内市町村全体において驚異の実施率と言えます。

このように困難な課題を実現させた要因は、網走市教育委員会及び教育長の忍耐強い指導支援によるものであり、網走市内の学校関係者の努力によるものと思われまます。全ての東京農業大学教職課程履修者は、2校以上の公開研究会に参加しております。大学教員養成課程内での演習等は、どの教員が担当しても「現場実践ではなく模擬実践レベル」にとどまります。現職教員による授業を見学し、授業後の検討会に参加することは、学生の意識・力量を高める貴重な機会であります。

これらは網走市教育委員会のサポートがなければ実現しない取り組みであり、大学組織としても非常に有益なサポートをいただいております。

「多彩な学生ボランティア活動」

網走市内小中学校の教育活動にボランティアとして大学生が参加することにより、各学校の教育活動をサポートするのみならず、大学生自身の成長発達が期待されます。

網走市教育委員会が大学との連携活動を推し進めていることにより、学生ボランティア活動が充実しております。

公立学校に関しては学力が高い地域の一つである福井県は、学力上位県となった背景の一つとして、県内の大学と小中学校が密接に連携したことを挙げております。

現在、網走市教育委員会はあらゆる面で東京農業大学との連携を強めており、長期的な視野に立って学力向上の土台強化を進めていることが伺われます。

3 社会教育の推進

● 生涯学習

- 網走市民大学は市民への学習機会の提供を市民による実行委員会で進めており、27年度は設立40年ということで例年に比べ多くの講座を開設し多数の受講がありました。毎年楽しみにしている市民が多いと思いますが、受講されている市民が高齢化している印象があります。40年を機にこれまでの運営方法や受講実態を検証し、講師の選考や開催曜日など定例化しているものについても、より充実するための工夫を検討することで、時代のニーズにあった市民大学に発展していくのではないかと考えます。

- 図書館における読書ノートの整備は、子どもが読書をするきっかけとして効果があるため、学校などでも取り入れられています。今後拡大していくためには、読書ノートの利用方法やその効能について利用する側に伝えていくことが必要だと思います。教育機関との連携をはじめ、一般市民に読書の楽しさを再認識してもらうことにより、図書館の活性化につながることを期待します。

● 社会教育

- 高齢者の学びの場である寿大学が、前身を含めて50年を迎えました。記念事業は大学生の意識向上のみならず多くの市民が寿大学を知る良い機会となりました。高齢者のさらなる学習意欲の高揚のため、今後も学習内容を検討し、併せて大学活動の成果を市民が知る機会を多く創出されるよう望みます。
- あばしり学講座は、自然や文化など私たちが住む地域の魅力を知る良い機会となっています。魅力ある資源の発掘を進めながら、効果的な事業に取り組んでいってください。また、講座体験がきっかけとなり参加者が生涯学習活動や社会活動に参画したり、親子参加により家庭での共通の話題となることで家庭における人間力の育成に通じることが大切であると思いますので、事業を行う上で目的を的確にとらえた企画運営がなされるよう望みます。

● 家庭教育

- 親と子のふれあい教室は幼児を育てる親のための講座として、マンネリ化することなく、参加者の意向を踏まえた新しい内容となっています。参加者の交流の場となり、若い子育て世代のネットワークづくりにつながるよう期待しています。
- 幼児を育てる親の子育て講演会は多くの市民が受講しました。時期や講師の選定、テーマが工夫されたことで充実した講演会となったのではないかと思います。今後も多くの市民に受講してもらうためにはテーマの検討と併せて、託児のさらなる充実も重要と考えます。

● 芸術文化

- オホーツク・文化交流センター芸術文化事業については、多彩なジャンルの公演が行われ、多くの市民が芸術文化を鑑賞する機会となったと思います。台風の影響でサクソフォンコンサートの入場者が少なかったのが残念に思われますが、今後もより充実した事業の実施を期待しています。
- ふるさとアーティストフェスティバルは隔年開催で25年度に続き2度目の開催ということで、市内吹奏楽やふるさとアーティストの出演者の多くが初出演であるなど、市民との意見交換を行いながら内容を検討してきたことが伺えるものでした。東京網走会とも連携して、アーティストがふるさと網走を外から応援し、市民はアーティストの活動を支援するといった双方向からの意識を持った取り組みが、今後さらに重要になると思います。

- 美術館の企画展は地元ゆかりのミニ企画をはじめ、多様で魅力的な構成に感じました。阿部典英展はこれまでの企画展では見られなかった大きな立体造形作品の展示で多くの鑑賞者が来館しました。またピカソ版画展では、世界の巨匠ということで市内外から多くの来館があり、小・中学校も団体で美術館を訪れたと聞いています。地域に美術館があることの素晴らしさをより理解してもらう機会になりました。
- 博物館では「網走絵馬展」、「網走のハチ展」の特別企画展が開催され、郷土の歴史や自然を学ぶ貴重な機会として充実した展示内容と感じました。今後も郷土について、多くの市民や子どもたちが接する機会を創出するため、企画展の周知広報や学校連携など、工夫した取り組みが進められるよう期待しています。

● スポーツ

- 市民健康プールがオープンしました。健康推進事業などに多くの高齢者の方が参加しています。市民の健康づくりの場として一年を通じてさまざまな事業に取り組まれると思いますが周知PRにより、多くの市民に利用される施設づくりを目指してください。
- スポーツ合宿は多くの国内トップアスリートが網走を訪れ、環境と市の受け入れ体制では高い評価を得ています。トップアスリートと市民や子どもたちとの交流も行われており、経済効果以外にも市民のスポーツ振興に貢献していると考えます。今後もより一層の充実が図られることを期待します。

● その他

- 女性センターが27年度で廃止となりましたが、担っていた機能は他の施設において継続的に市民活動が行われるよう配慮を望みます。また、社会教育施設は総合体育館や市民会館、美術館など建築年の古い施設が多くあり、長期的な視野に立って安心・安全で市民が利用しやすい施設の在り方を検討する時期であると考えます。

4 教育委員会活動

教育委員会の自己点検は、適切であると判断いたします。

「児童生徒の発達」を第一に考え、実際に学校に出向き教育活動や公開研究会における研究の進捗状況を正確に把握した上で、学校支援に取り組んでいることが評価されます。

学校が抱える教育課題が多様/複雑化している現状から、教育委員会の活動がより一層重要となると思われます。

そのことから今後、教育委員会主導による新たな「学力向上を含めた子どもの発達を促す取り組み」を期待します。